

診療科等のクリニカルインディケーター(CI)について

- ・平成28年4月1日から「消化器内科」を設置しました。平成28年度「消化器内科」のCIには「第1内科」「第2内科」の実績も含まれます。

- ・平成29年4月1日から「第1内科」「第2内科」「第3内科」「膠原病・感染症内科」「消化器内科」の5診療科体制を「循環器内科」「腎臓内科」「肝臓内科」「血液内科」「神経内科」「呼吸器内科」「内分泌・代謝・糖尿病内科」「膠原病・感染症内科」「消化器内科」の9診療科体制に変更しました。

平成28年度までの実績には、旧診療科の実績も含まれます。

- ・令和3年4月1日から「肝臓内科」は「消化器内科」となりました。

- ・令和4年4月1日から「膠原病・感染症内科」は「膠原病内科」と「感染症内科」に分かれました。

第5部 診療科等活動実績

循環器内科

2. 大学病院特有項目： 心血管カテーテル治療件数

▶ 項目の解説

心臓を栄養している血管(冠動脈)の狭窄や下肢動脈の狭窄をバルーンで拡張したりステントと呼ばれる金属製の網状の管を留置したりする治療です。

▶ 定義

年間の延べ治療患者数です。

コメント

大学病院として様々な合併症を抱える虚血性疾患に対する治療はもちろん、近年は急性期治療にも注力し、迅速な救急患者受け入れを行っています。COVID19による制限のため一旦減じた症例数も、今後は増加傾向が見込まれ、患者背景に十分配慮した最適なカテーテル治療および術後の至適薬物療法を提供できるよう努めています。

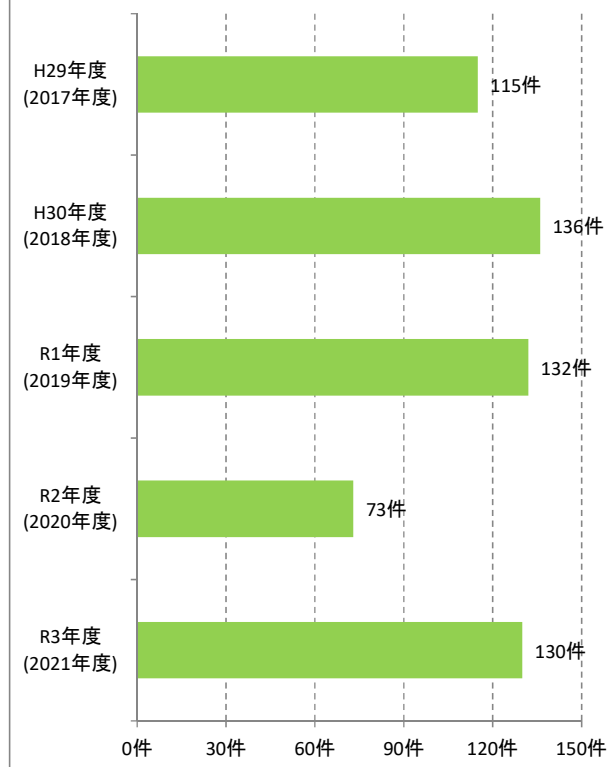
算式

延べ患者数

単位

件

心血管カテーテル治療件数



心臓カテーテルアブレーション治療件数

▶ 項目の解説

カテーテルアブレーション(心筋焼灼術)治療は、局所麻酔下でカテーテルという直径2mm位の管を心臓内まで挿入し、不整脈のもととなる異常な部分に高周波電流にて焼灼を行う手術です。

▶ 定義

年間の延べ治療患者数です。

コメント

当科では宮崎県および鹿児島県の幅広い地域から多種にわたる不整脈疾患を紹介して頂いています。
最近では合併疾患を持った患者に対するアブレーションや難治性の心室頻拍への治療も行います。

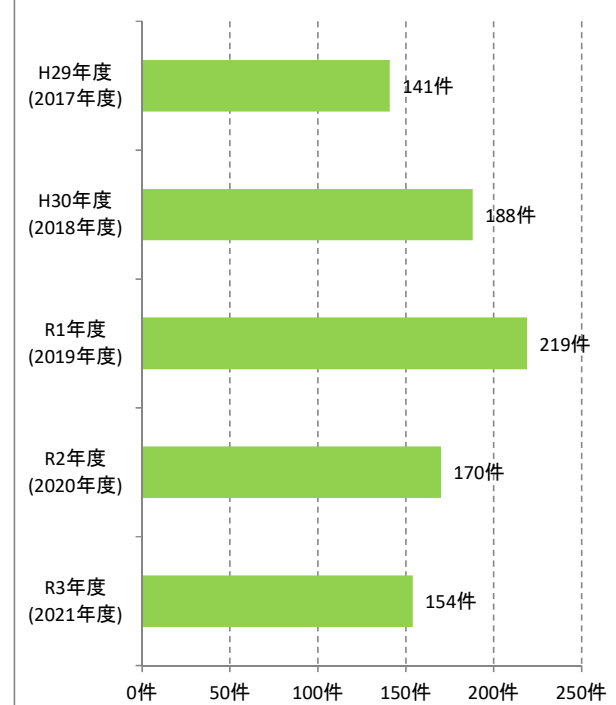
算式

延べ患者数

単位

件

心臓カテーテルアブレーション治療件数



ICDおよびCRT-D 植込み術

▶ 項目の解説

ICDは致死性の不整脈(心室頻拍、心室拍動)を治療する植込み型除細動器であり、CRT-Dは通常のペースメーカー機能に加え、心不全治療機能の心臓再同期療法(CRT)とICDの機能を搭載した植込み型の治療機器です。

▶ 定義

年間の延べ治療患者数です。

コメント

宮崎県内でも本治療を施行し得る施設は少ないのですが、ICD及びCRT-D植込み術の適応患者は年々増加傾向にあります。当科では、カテーテルアブレーション治療と同様に複数の病気を合併した患者さんにも治療を行います。

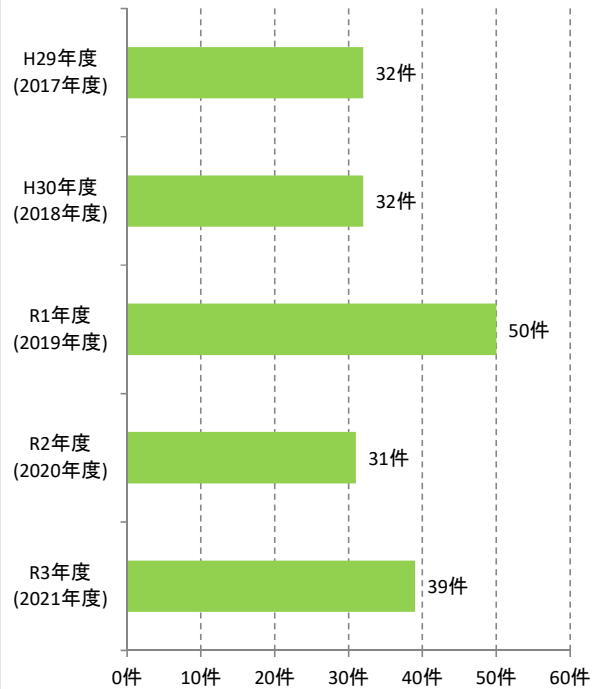
算式

延べ患者数

単位

件

ICDおよびCRT-D 植込み術



1. 一般的項目:

腎生検数

▶ 項目の解説

経皮的に腎臓の一部を生検針にて採取する検査です。

▶ 定義

1年度あたりの数です。

コメント

腎臓疾患をできるだけ正確に診断する手段です。
それに基づき、各患者に合った治療方法の選択が可能となります。
他院からの紹介数も増加してきております。

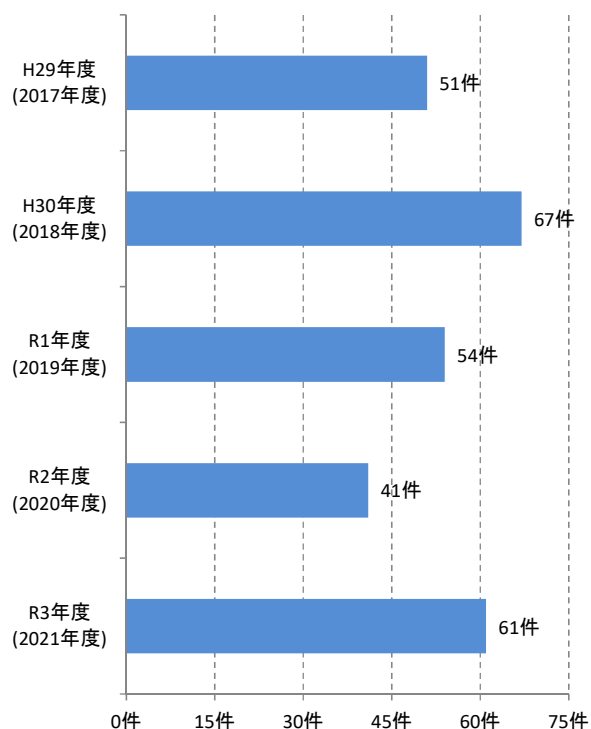
算式

延べ件数

単位

件

腎生検数



2. 大学病院特有項目:

難治性腎疾患に対するアフェレシス療法

▶ 項目の解説

難治性の腎炎(ANCA関連血管炎を含む)・ネフローゼ症候群に対して、血中から人体に有害な物質を体外へ除去し、重篤な病態の改善を図る治療法です。

▶ 定義

1年度あたりの数です。

コメント

通常の内服治療のみでは改善の得られない難治性腎疾患において用いられる体外循環療法(血液を体外に出し、有害な物質を除いて体内に戻す)です。他院からの紹介も多くなってきております。

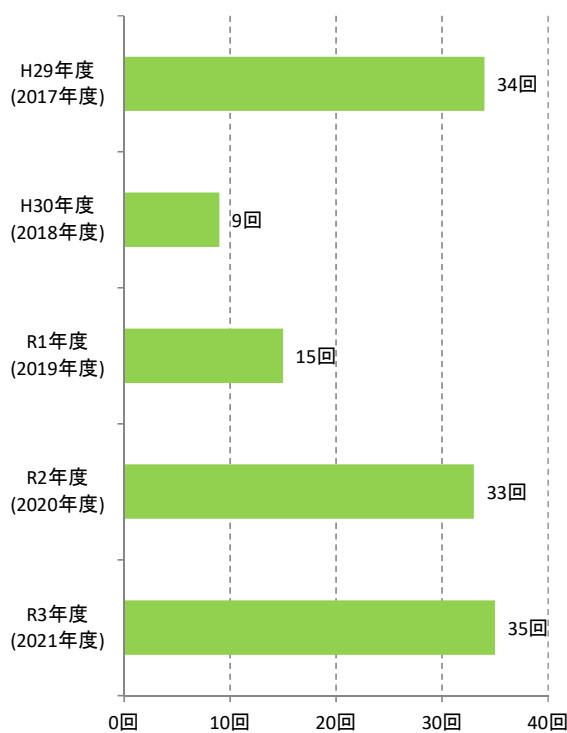
算式

延べ回数

単位

回

難治性腎疾患に対するアフェレシス療法



1. 一般的項目:

造血器悪性腫瘍に対する化学療法の症例数

▶ 項目の解説

血液内科では白血病や悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器悪性腫瘍に対し、化学療法、分子標的療法、自己末梢血幹細胞移植、同種造血幹細胞移植を行っています。南九州地区ということもあり成人T細胞白血病/リンパ腫(ATL)も多く、その治療に取り組んでおります。

▶ 定義

年間の造血器悪性腫瘍に対する化学療法の症例数

コメント

血液悪性腫瘍は治癒の可能性のある疾患です。十分な治療効果ができるように副作用のコントロールを行いながら安全に治療ができるように心がけます。

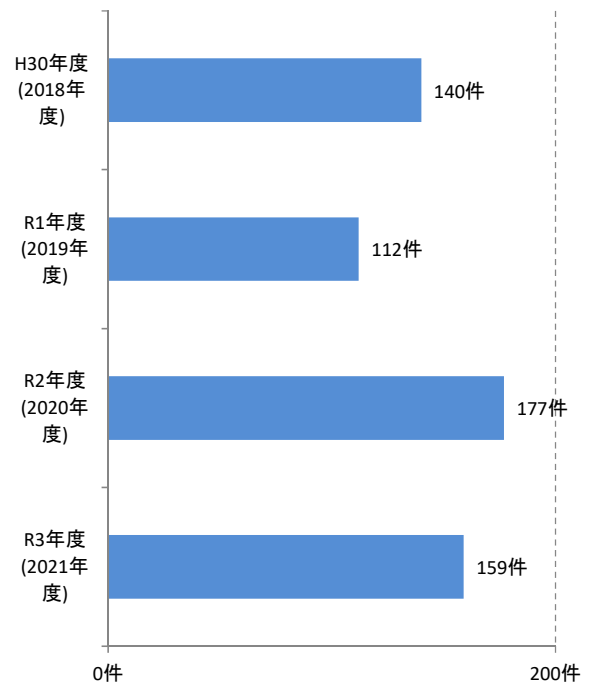
算式

造血器悪性腫瘍に対する
化学療法の症例数

単位

件

造血器悪性腫瘍に対する化学療法の症例数



2. 大学病院特有項目:

造血幹細胞移植症例数

▶ 項目の解説

同種造血幹細胞移植については、特にさい帯血移植やパブロ移植についても取り組んでおります。

▶ 定義

年間の造血幹細胞移植症例数

コメント

造血細胞移植は患者さんの体に大きな負担がかかる治療ですが、生命に関わる疾患があり移植以外に治癒の方法がない場合に行います。治療技術の進歩により安全性が高まりつつあります。

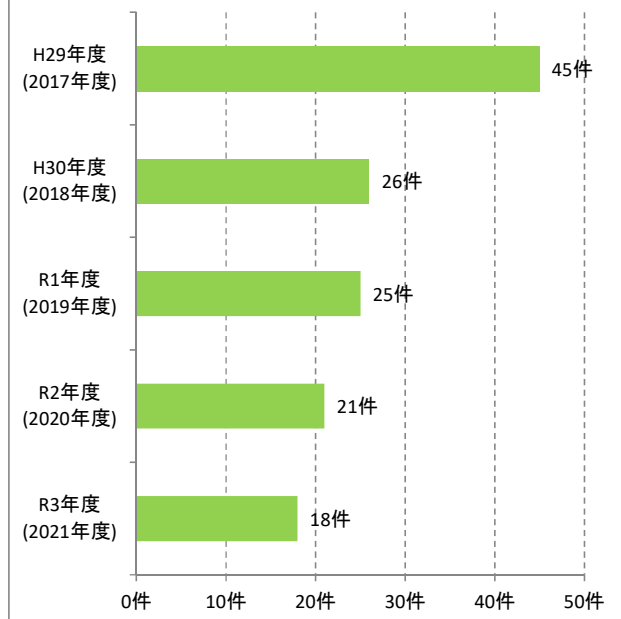
算式

造血幹細胞
移植症例数

単位

件

造血幹細胞移植症例数



脳神経内科

1. 一般的項目： 中枢神経感染症治療

▶ 項目の解説

緊急を要する脳炎や髄膜炎などの中枢神経感染症の救急患者受け入れ実績で、早期診断・治療開始を行います。

▶ 定義

年間の延べ治療患者数です。

コメント

県内各地から神経内科救急患者を受け入れております。中枢神経感染症は特に緊急性が高く、早期診断・治療が行えるようにしております。

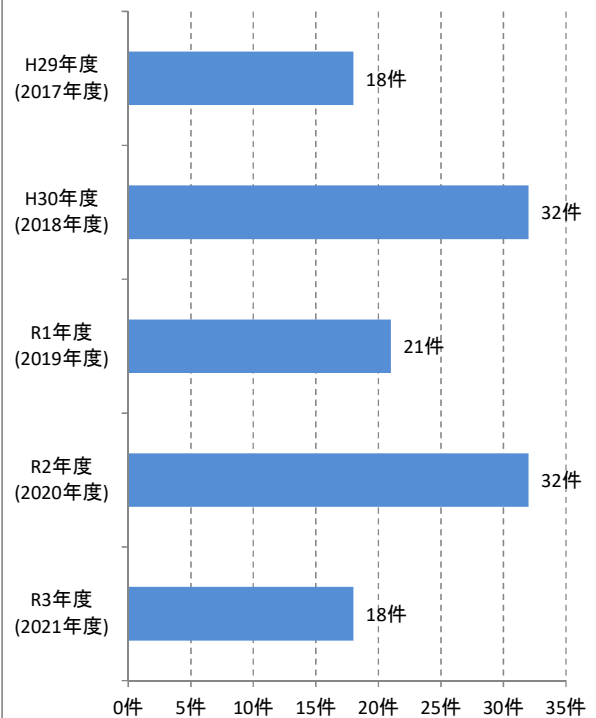
算式

件数

単位

件

中枢神経感染症治療



2. 大学病院特有項目： 筋疾患における病理学的診断

▶ 項目の解説

筋疾患は筋病理学的診断が必要な疾患が多くあるため、当科では筋生検を行って最終的な診断を行っております。

▶ 定義

年間の筋生検件数です。

コメント

県内では筋生検の可能な施設に限られるため、多くの施設からの診断依頼を受けております。

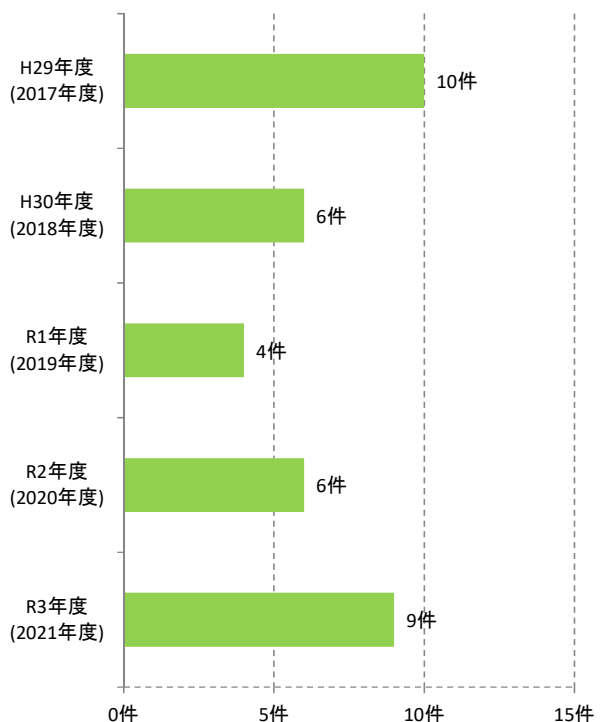
算式

件数

単位

件

筋疾患における病理学的診断



1. 一般的項目: 肺癌治療成績

▶ 項目の解説

呼吸器疾患の多くを占める肺がん患者の治療件数は、診療体制の充実度を評価します。

▶ 定義

年間の肺癌化学療法導入数です。

コメント

年によって多寡はありますが、肺癌の治療導入数は年間80-90例と一定数を維持しています。COVID-19流行期の2020年度・2021年度でも、肺癌患者数は減少しないためか、治療成績も減少せず、維持しています。

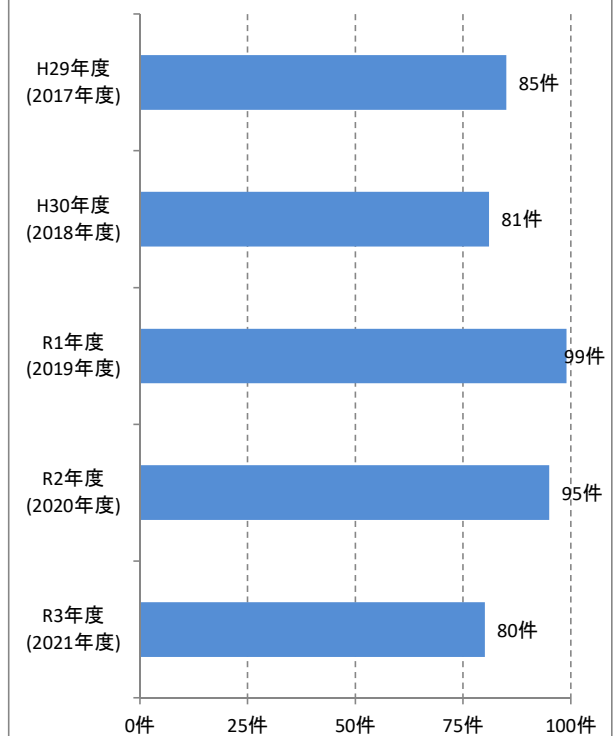
算式

肺癌化学療法レジメン数
(同レジメンを除く) +
分子標的薬新規処方数

単位

件

肺癌治療成績



2. 大学病院特有項目: 超音波気管支鏡下針生検 (EBUS-TBNA)

▶ 項目の解説

縦隔リンパ節を気管支鏡にて生検することができます。肺癌のリンパ節転移や、サルコイドーシス、悪性リンパ腫の診断に有用な検査です。

▶ 定義

超音波気管支鏡下針生検 (EBUS-TBNA) の延べ検査数です。

コメント

県内で対応できる病院が少なく、県内各地から患者様が来院されます。COVID-19流行期の2020年度・2021年度では、リンパ節転移のある肺癌患者は上記の通り減少していませんが、サルコイドーシス等の良性腫瘍に対する検査数が減少しました。

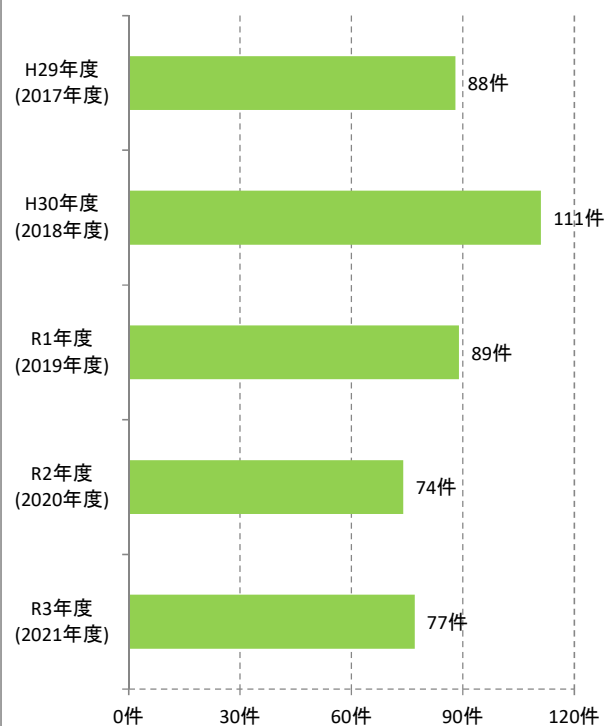
算式

延検査数
(気管支鏡検査のうち、
EBUS-TBNAを施行した数)

単位

件

超音波気管支鏡下針生検 (EBUS-TBNA)



1. 一般的項目：入院して精査加療を行った糖尿病症例

▶ 項目の解説

糖尿病性ケトアシドーシスなど急性代謝失調の治療、術前血糖管理、糖尿病教育のために入院のにて加療している。

▶ 定義

入院加療を必要とした糖尿病症例数

コメント

糖尿病薬の進歩とCDEJ(日本糖尿病療養指導士)を含めチーム医療により、外来加療で血糖管理できていることが入院症例減の要因と考えられる。

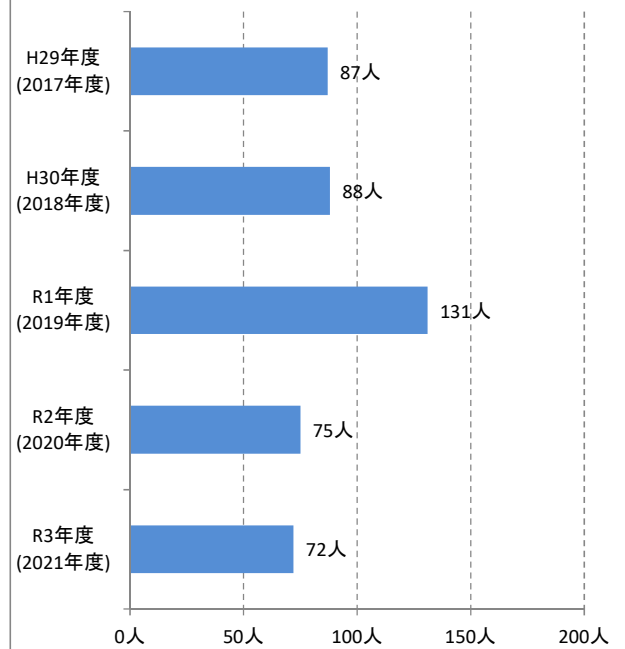
算式

1型糖尿病、2型糖尿病、
糖尿病を病名に有する
患者数を重複を避けて検索

単位

人

入院して精査加療を行った糖尿病症例



2. 大学病院特有項目：下垂体疾患患者の内分泌学的評価

▶ 項目の解説

内分泌負荷試験を中心に、下垂体疾患の術前・術後の内分泌学的評価は短期入院で評価している。脳神経外科と診療連携により、スムーズな術前・術後の内分泌学的管理が行われている。

▶ 定義

入院精査を要した下垂体疾患入院患者数(2020年より外来患者を除外し入院患者のみ算定)

コメント

脳神経外科での下垂体疾患患者手術症例の増加に伴い、症例数は年々増加している。

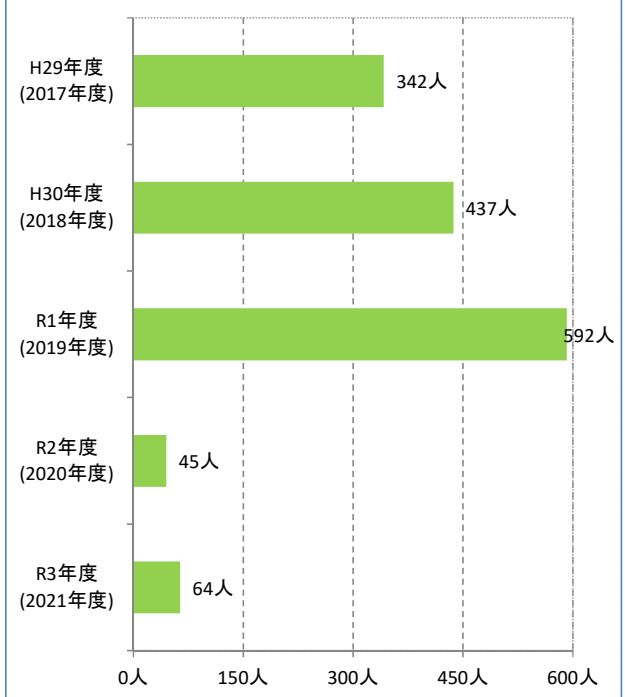
算式

下垂体、尿崩症、成長ホル
モンなどの下垂体関連病名
を有する患者数を重複を避
けて検索

単位

人

下垂体疾患患者の内分泌学的評価



1. 一般的項目： 年間の特定疾患の新規申請数

▶ 項目の解説

当科が担当する膠原病には、いわゆる特定疾患＝難治性疾患克服研究事業として厚生労働省が指定する疾患が多く含まれます。
この疾患の当科における新規発症数を把握することができます。

▶ 定義

当科で該当疾患の臨床調査個人票を新規発行した件数です。

コメント

膠原病指定難病の新規診断症例数は、県内各地からの紹介もあり徐々に増加しております。

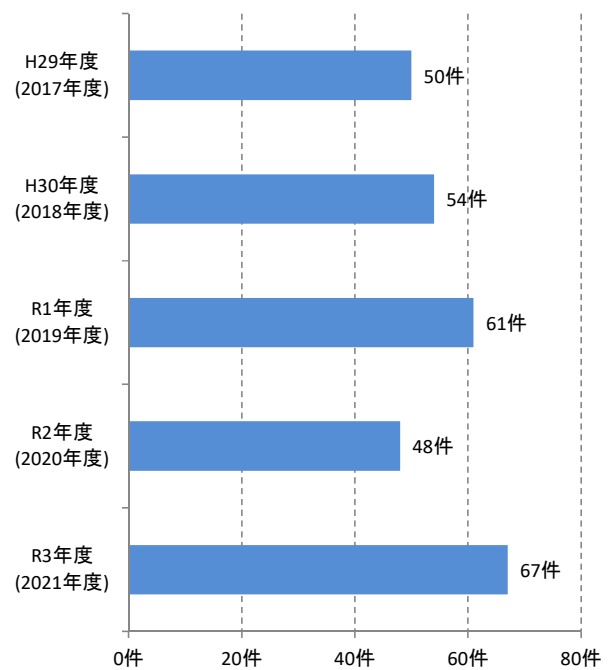
算式

件数

単位

件

年間の特定疾患の新規申請数



2. 大学病院特有項目： 不明熱患者における、診療の始まりから診断確定までの日数

▶ 項目の解説

当科では原因不明の発熱の原因検索を請け負うことが多く、診断までにかかる日数から、診断能力と診断機器の性能の向上の程度を推し量ることができます。

▶ 定義

入院日より診断確定までの日数です。
診断確定日とは、治療を開始した日か、原因不明のまま退院となった日のこととする。

コメント

不明熱は膠原病のほか、感染症・悪性腫瘍の診断がつくこともあり、他科に専門治療などご紹介させていただいております。診断までの日数は年度により変動がありますが、各種検査の向上や各科との連携により、徐々に短縮傾向にあります。

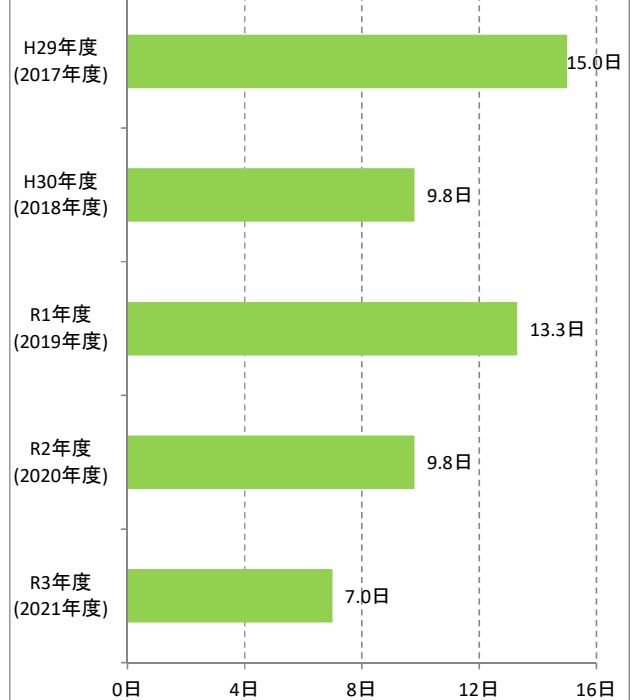
算式

日数

単位

日

不明熱患者における診療の始まりから診断確定までの日数



感染症内科

1. 一般的項目: 感染症の診断/治療に関する相談及び血液培養陽性例に対し働きかけを行った件数

▶ 項目の解説

院内の各診療科で治療に難渋している感染症についてコンサルテーションを受け、共同診療、診療支援に取り組んでいます。また、感染制御部と連携して、抗菌薬適正使用の推進をはかるため、血液培養陽性患者の状況を把握しており、必要に応じて働きかけを行っています。

▶ 定義

年間の相談及び働きかけを行った件数

コメント

内科系、外科系から幅広くコンサルテーションを受けており、増加傾向にあります。今後も患者さんの治療成績向上につながるよう努力していきます。また、抗菌薬の適正使用を推進していきます。

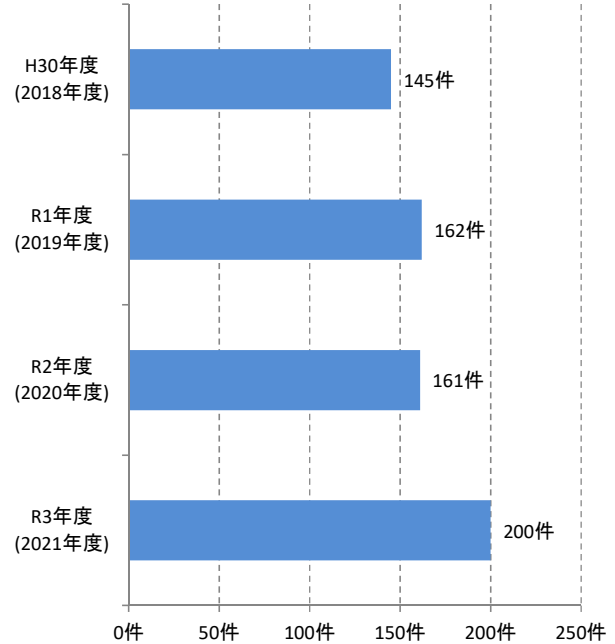
算式

件数

単位

件

感染症の診断/治療に関する相談及び血液培養陽性例に対し働きかけを行った件数



2. 大学病院特有項目: HIV/AIDSの症例数

▶ 項目の解説

エイズ治療拠点病院として、HIV感染症及びエイズ患者の診療を行っています。

▶ 定義

年間の患者数

コメント

HIV感染症及びエイズ患者の予後の改善に伴い、感染者の累積的な増加が考えられます。

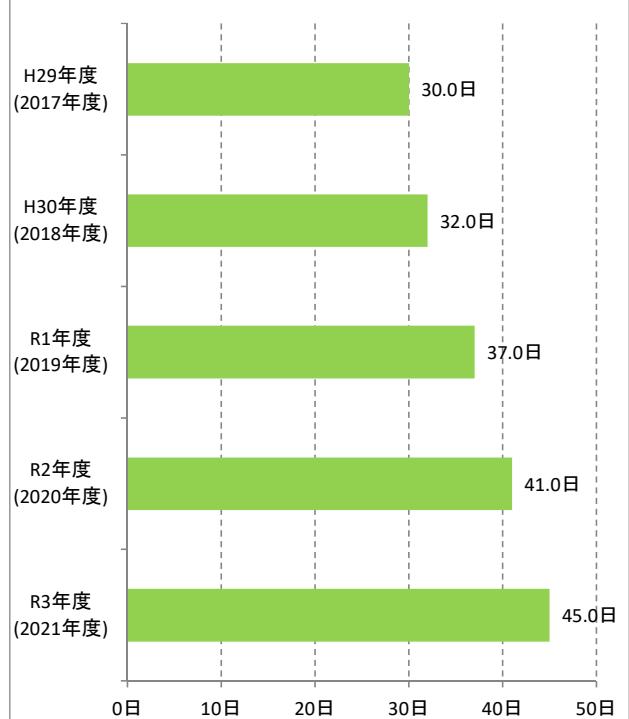
算式

患者数

単位

人

HIV/AIDSの症例数



消化器内科

※H28・29年度は光学医療診療部での実績含む。

1. 一般的項目： 上下部消化管内視鏡検査件数

▶ 項目の解説

食道・胃・十二指腸および大腸に対する内視鏡検査です。

▶ 定義

年間の検査件数です。

コメント

悪性疾患から炎症性疾患まで幅広い内視鏡診療を行っております。治療を前提として狭帯域光観察(Narrow Band Imaging:NBI)、拡大内視鏡、超音波内視鏡なども行い、経験を生かした精度の高い精査を行っております。

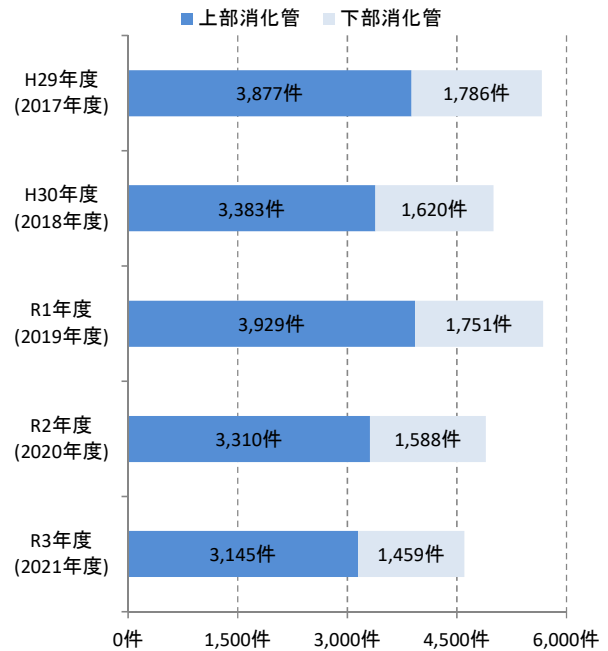
算式

延べ件数

単位

件

上下部消化管内視鏡検査件数



小腸内視鏡検査件数

▶ 項目の解説

ダブルバルーン小腸内視鏡(DEB)とカプセル内視鏡(CE)を用いた小腸疾患の内視鏡検査です。これまでは外科手術が必要であった小腸出血や小腸腫瘍などの内視鏡的診断と治療が可能となり、患者さんの負担軽減につながります。

▶ 定義

年間の検査件数です。

コメント

ダブルバルーン小腸内視鏡は、一般的な内視鏡では診断・治療が困難である小腸疾患の内視鏡診断と治療が可能となります。また、術後再建腸管を有する患者さんの診断・治療にも有用です。

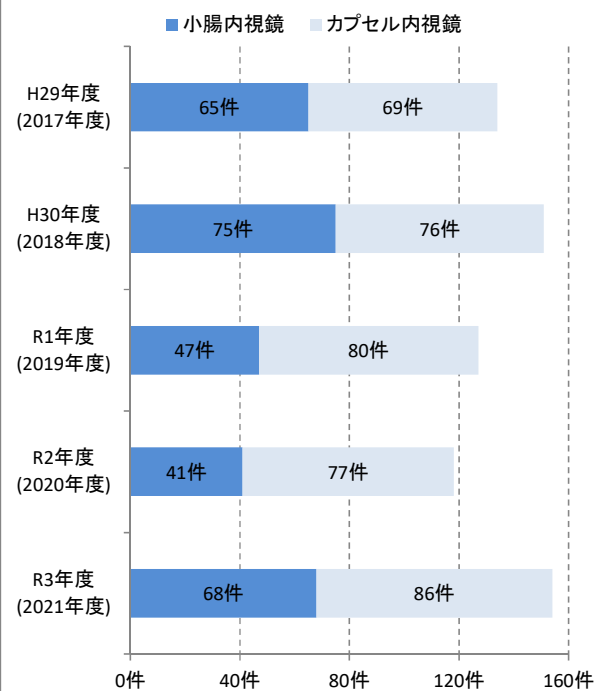
算式

延べ件数

単位

件

小腸内視鏡検査件数



腹部超音波検査件数

項目の解説

肝臓・胆道(胆嚢・胆管など)・膵臓をはじめとする腹部臓器の状態把握目的に最初に行われることが多い画像診断です。腹部超音波検査は非侵襲性及び即時性に優れた検査です。一方で術者の技量により評価が左右される欠点も有します。しかし、当科に紹介されることが多い肝硬変、肝腫瘍、黄疸症例の状態把握・診断に極めて有用です。この件数に肝胆膵疾患診療の体制や人員・設備などを含めた充実度が反映されるものと考えます。

定義

消化器内科医師が施行した年間の腹部超音波検査件数 + 院内医師がオーダーした腹部超音波検査(超音波技師施行)件数

コメント

以前、当院では腹部超音波検査を行うにあたり、その多くは肝臓内科にコンサルトの上、施行されておりました。現在は肝臓内科を介さず、各診療科より直接、癌診療部腹部超音波検査へ依頼することが可能となりました。加えて胆膵系の疾患に関しては消化器内科の胆膵専門医師が、同検査を施行しております。R3年度より消化器内科と肝臓内科が合併したため、腹部超音波検査の検査数は大幅に増加しております。

算式

自科生理検査
901件

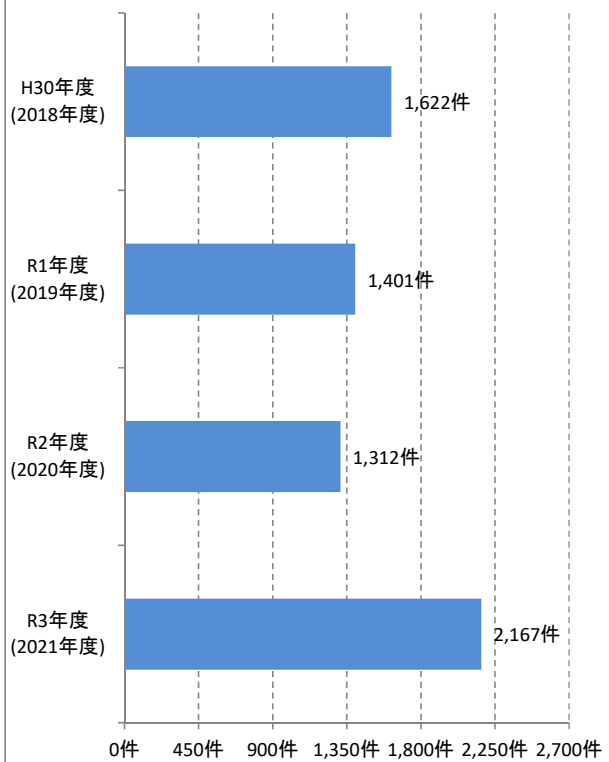
+

がん診療部腹部超音波検査
数、内肝臓内科1266件

単位

件

腹部超音波検査件数



2. 大学病院特有項目:

内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)件数

項目の解説

早期食道癌、早期胃癌、早期大腸癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術の施行件数です。リンパ節転移の可能性が極めて低い、粘膜内から粘膜下層浅層に留まる病変を、粘膜下層から剥離します。

定義

年間の治療件数です。

コメント

外科手術よりも患者さんにかかる負担が軽く、入院日数も短縮されますが、高度な技術を要する手技で県内では専門的に施行可能な施設は限定されています。

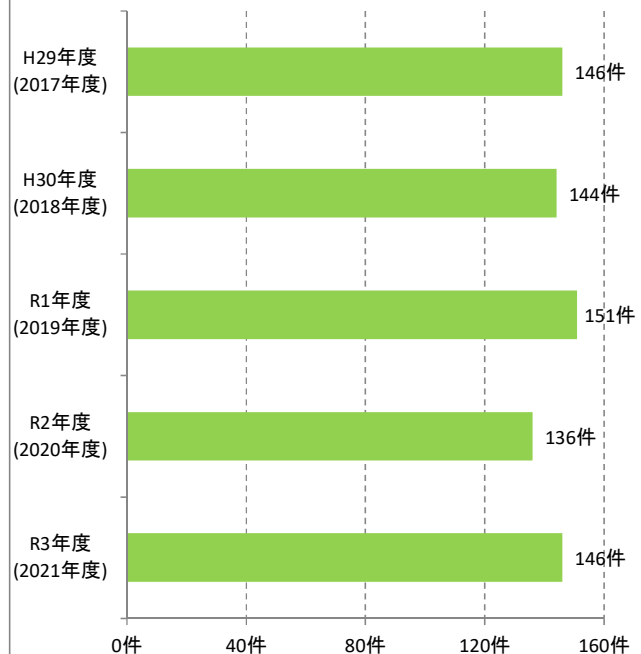
算式

延べ件数

単位

件

内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)件数



2. 大学病院特有項目： 内視鏡的止血術

▶ 項目の解説

食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、すべての腸管からの出血に対し、内視鏡的に治療を行います。

▶ 定義

年間の治療件数です。

コメント

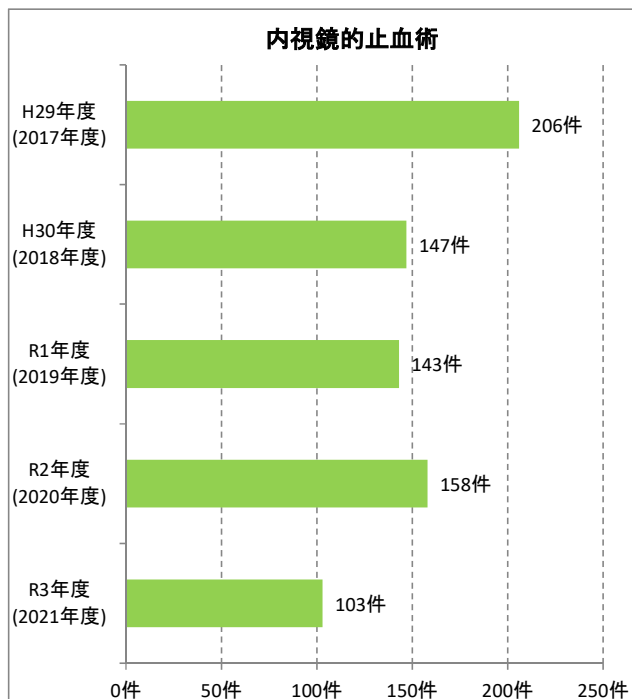
当院救命救急センターと協決して、日中夜間を問わず緊急で止血処置に対応しています。食道胃静脈瘤出血の止血治療は内視鏡的食道胃静脈瘤治療に含まれます。

算式

延べ件数

単位

件



内視鏡的大腸ポリープ切除

▶ 項目の解説

大腸ポリープに対する内視鏡的切除術の施行件数です。

▶ 定義

年間の治療件数です。

コメント

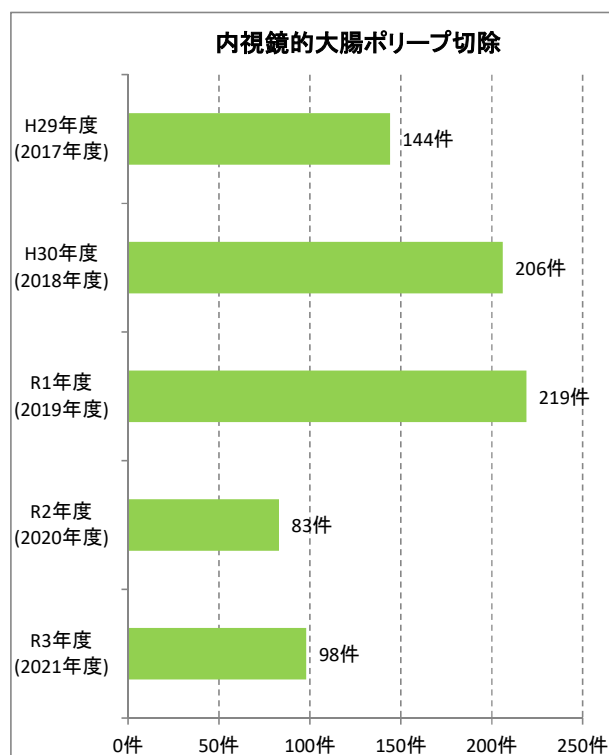
高齢化や抗血栓療法などの使用に伴い、一般病院で治療困難な症例が、年々増加傾向です。

算式

延べ件数

単位

件



超音波内視鏡(EUS)件数

項目の解説

超音波内視鏡(EUS)は胆膵疾患の精査目的に行われる検査です。細胞や組織の採取による病理学的確定診断(EUS-FNA)や各種ドレナージ(interventional EUS)を目的とした治療にも応用しています。ERCP不能例・不成功例に対しては積極的にinterventional EUSを施行しています。難易度が高く、重篤な偶発症が発生する可能性があります。したがって、限られた施設でしか行われていません。

定義

年間の検査件数です。

コメント

県内では専門的に施行可能な施設がありません。現在では診断的ERCPに代わって第一選択の精査法となっています。

算式

延べ件数

単位

件

超音波内視鏡(EUS)件数



内視鏡的膵胆管造影(ERCP)

項目の解説

内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)は胆膵系疾患に対して行われる検査です。難易度が高く、重篤な合併症が発生する可能性もあります。したがって、限られた施設でしか行われていません。

定義

年間の件数です。

コメント

ERCPは年間200~300件で推移しています。R3年度は診断目的・治療目的共に件数は増加しております。若手のERCP施行医が育ってきているためと思われます。

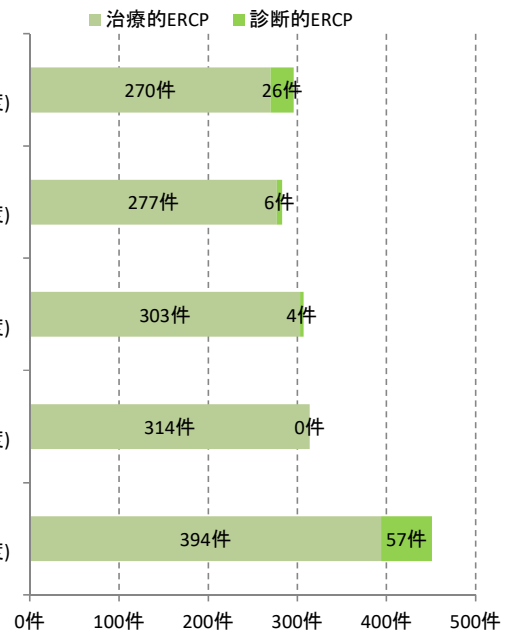
算式

延べ件数

単位

件

内視鏡的膵胆管造影(ERCP)



内視鏡的食道胃静脈瘤治療(内視鏡的食道胃静脈瘤硬化療法+内視鏡的食道胃静脈瘤結紮術)施行数

▶ 項目の解説

食道静脈瘤に対する内視鏡的治療は、肝硬変という重篤な基礎疾患を有する症例群に対し施行せざるを得ないことから全身状態管理に加え、高度な内視鏡技術が必要となります。この為、県内でも施行施設は限られています。この件数に専門性の高い肝疾患診療の体制や人員などを含めた充実度が反映されるものと考えます。

▶ 定義

年間の食道静脈瘤硬化療法と内視鏡的食道静脈瘤結紮術の合計数です。

コメント

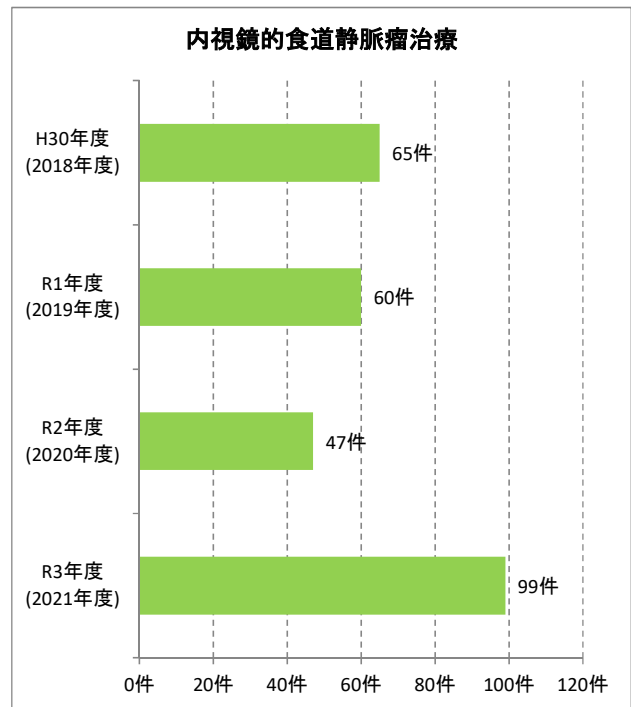
宮崎県内で施行可能な施設が少なく、ほとんどが当院肝臓内科にて施行されていた治療です。R3年度は消化器内科との合併のため、施行件数が増加しております。

算式

延べ件数
(内視鏡的硬化療法23件
+
内視鏡的結紮術76件)

単位

件



精神科

1. 一般的項目:

統合失調症圏疾患(ICD-10:F2)の平均在院日数

▶ 項目の解説

近年、精神科医療における入院医療の短縮化が課題となっています。当院でも地域の訪問看護ステーションを利用するなど、地域との連携を積極的に図り、入院期間の短縮に努め、平均在院日数を経年的に追跡することで評価を行います。

▶ 定義

統合失調症・統合失調感情障害と診断された患者が対象(妄想性障害・急性一過性精神病性障害、せん妄は除外)です。年度初日から年度末日までに上記対象疾患の入院患者の入院日数の総和を入院患者数で除した日数をここでは平均在院日数としました。

コメント

変動はありますが、平均在院日数は短縮化する傾向にあり、今後もさらなる短縮に努力していきます。

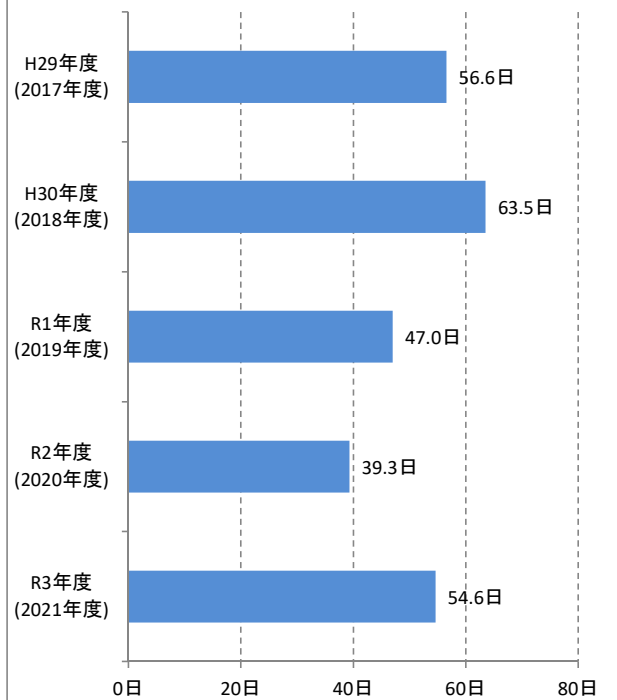
算式

平均在院日数

単位

日

統合失調症圏疾患(ICD-10:F2)の平均在院日数



2. 大学病院特有項目:

修正型電気けいれん療法の件数

▶ 項目の解説

修正型電気痙攣療法は、重症のうつ病や薬物療法に抵抗性のある統合失調症などの疾患に対する有効な治療法であるにもかかわらず、宮崎県では実施できる施設が限られています。技能の蓄積を実施経験数で評価します。

▶ 定義

年度内の施術数の総和です。1症例に対し10回施行した場合も、10症例に対し1回ずつ施行した場合も等しく10回と数えました。

コメント

毎年度、修正型電気痙攣療法は実施され、必要とされる実施技能は伝承されています。今後も経験数を重ね、より確かな治療実績を蓄積できるよう努めていきます。

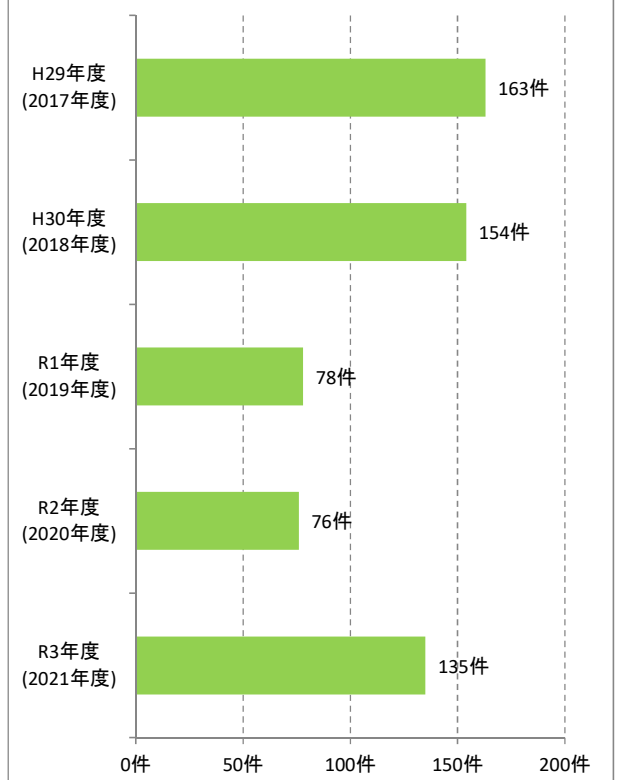
算式

延べ件数

単位

件

修正型電気けいれん療法件数



1. 一般的項目：腎生検数

▶ 項目の解説

学校検尿などで発見される尿所見異常や腎機能障害は、慢性糸球腎炎などの基礎疾患を有している場合があります。

腎生検による組織診断と重傷度評価を行うことによって、適切な治療を選択することが可能となり、予後の改善につながります。

▶ 定義

年間の腎生検症例数です。

コメント

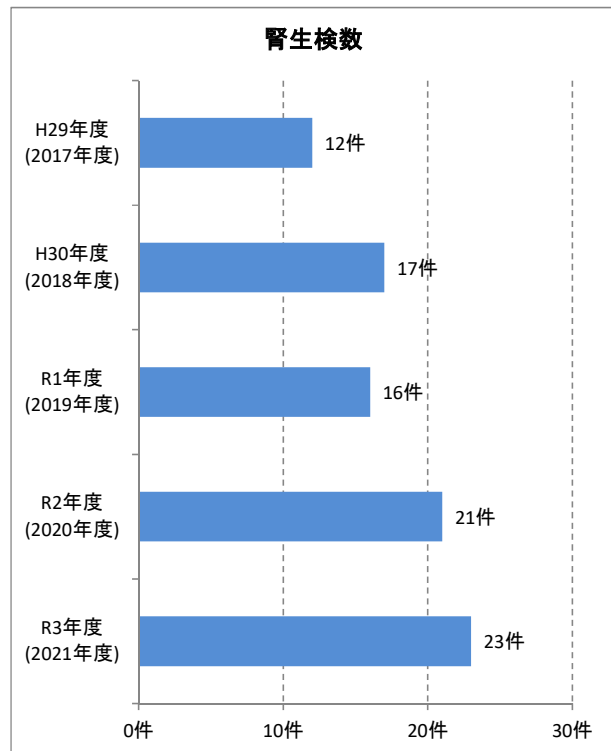
宮崎県で小児患者に対して腎生検が可能な唯一の施設として、年20例程度の実施実績を維持しており、宮崎県の小児腎疾患患者さんの早期発見、早期治療に努めています。

算式

実施数

単位

件



2. 大学病院特有項目：造血幹細胞移植

▶ 項目の解説

造血幹細胞移植救済を行うことで、大量化学療法が可能となり、原疾患の治療成績が向上します。また血液悪性疾患に対する造血幹細胞移植は、GVL効果による殺細胞効果を高めます。

▶ 定義

年間の移植実施回数です。

コメント

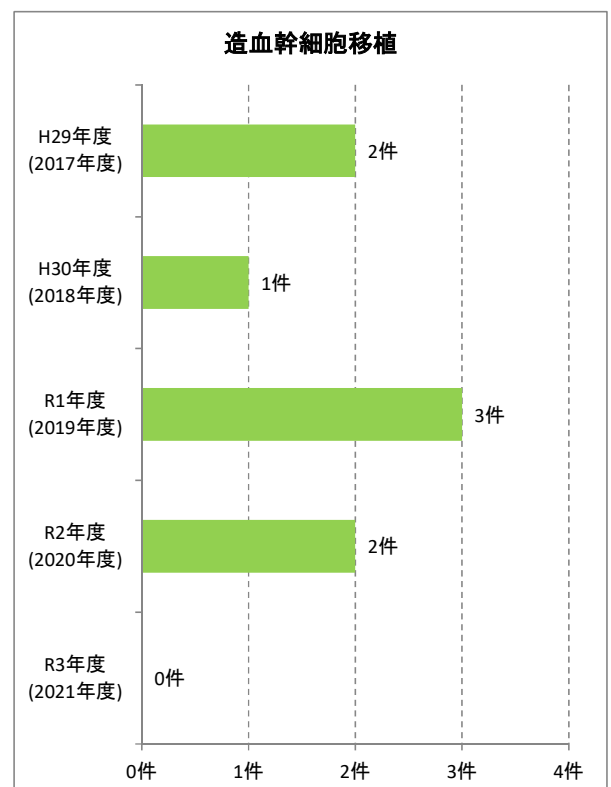
当施設が宮崎県の小児がん全ての治療を担っています。その発症数から移植が必要な症例数は妥当な数です。血液悪性疾患の同種移植を開始したことによりさらに実施回数の増加を見込んでいます。本治療によりさらなる治療成績向上に貢献しています。

算式

実施回数

単位

回



腹膜透析患者数

▶ 項目の解説

末期腎不全に対する腎代替療法として、小児では腹膜透析が選択されます。

また、小児腎不全患者の場合、最終的には腎移植を行うことが望ましいと考えられ、腎移植までの期間の維持透析として腹膜透析を行っています。

▶ 定義

新規に腹膜透析を開始した患者数です。

コメント

小児末期腎不全患者(0-19歳)の発生率が4人/100万人程度であり、成人科での透析導入や先行的腎移植症例を除くと概ね宮崎県小児腎不全患者の全てに対応していると考えている。さらにこれらの症例に維持腹膜透析を行うことで生命予後の改善に貢献しています。

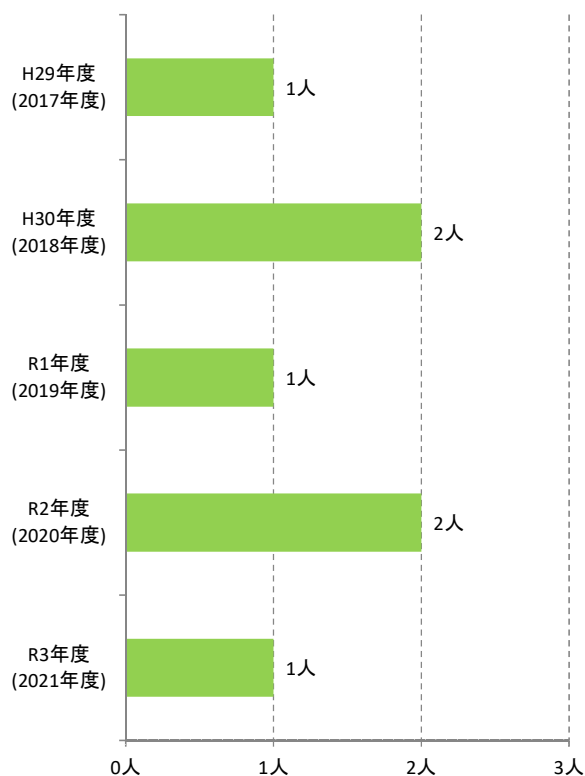
算式

新規患者数

単位

人

腹膜透析患者数



在宅人工呼吸管理

▶ 項目の解説

重症心身障害や神経難病などに由来する、最重度の呼吸障害を伴う患者さんが在宅で生活できるよう、在宅人工呼吸管理を行います。

▶ 定義

とくに重症度が高い、気管切開孔を介した陽圧式人工管理を施行した在宅療養患者の年間総数

コメント

かつては退院困難だった患者さんたちが、ご自宅で過ごせるようになってきました。

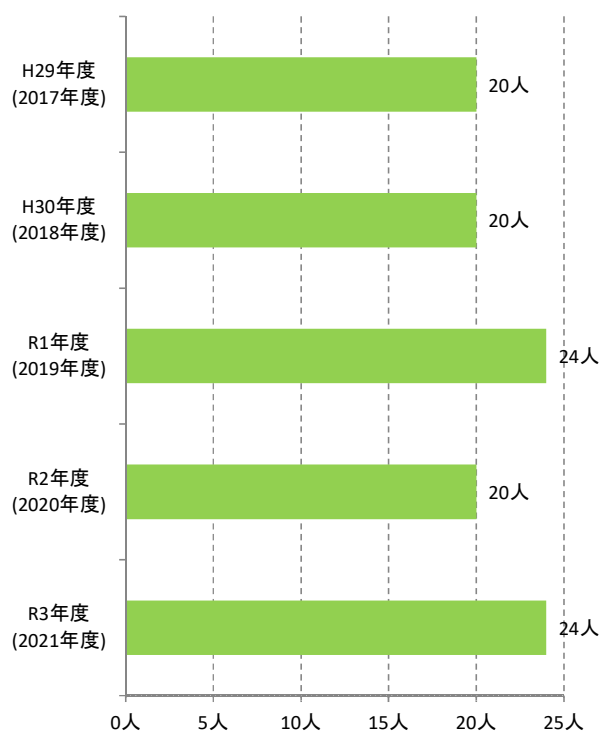
算式

総患者数

単位

人

在宅人工呼吸管理



胎児心エコー診断

▶ 項目の解説

胎児エコーで心疾患が疑われた妊婦に対する胎児心エコー診断です。

▶ 定義

年間の患者実数です。

コメント

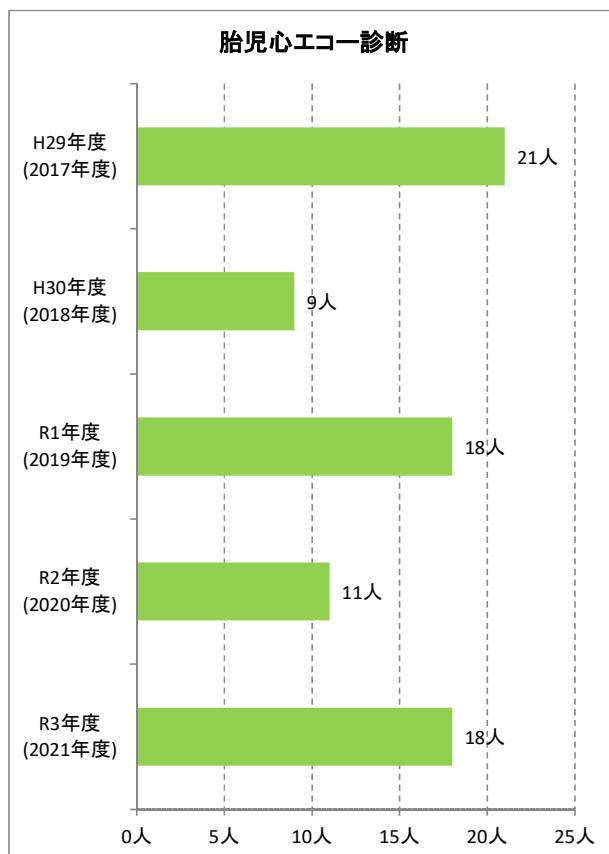
ばらつきがありますが、出生数が減少しているのに対し症例数は増加しています。胎児心エコー診断によりスムーズな新生児心疾患治療が行われています。

算式

施行患者数

単位

人



心臓カテーテル検査・治療

▶ 項目の解説

先天性心疾患、肺高血圧症、心不全などの精密検査です。足の付け根や首の血管から心臓までカテーテルを入れて検査します。必要に応じてそのままカテーテル治療を行います。

▶ 定義

年間の延被験者数です

コメント

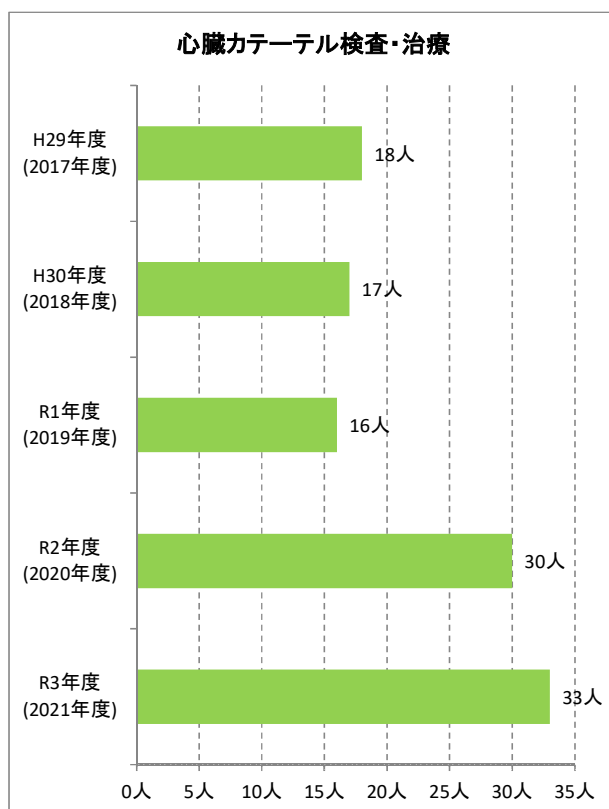
増加傾向にあります。

算式

延患者数

単位

人



1. 一般的項目:

肝胆膵高難度手術件数

▶ 項目の解説

肝胆膵領域において難度の高い手術が多くあり、これらの術式は日本肝胆膵外科学会により高難度肝胆膵外科手術として指定されています。

これらを多く行っている施設はhigh volume centerであり、術後合併症が少ないと言われ、また肝胆膵外科医の教育施設としても貢献でき、アクティビティーの高い施設と言えます。

▶ 定義

日本肝胆膵外科学会により指定されている高難度肝胆膵外科手術の手術件数

コメント

年間50例以上が行われており、これにより当施設は宮崎県で唯一の日本肝胆膵外科学会高度技能専門医制度認定修練施設(A)に認定されています。

今後も件数が増加または維持されることが期待されます。

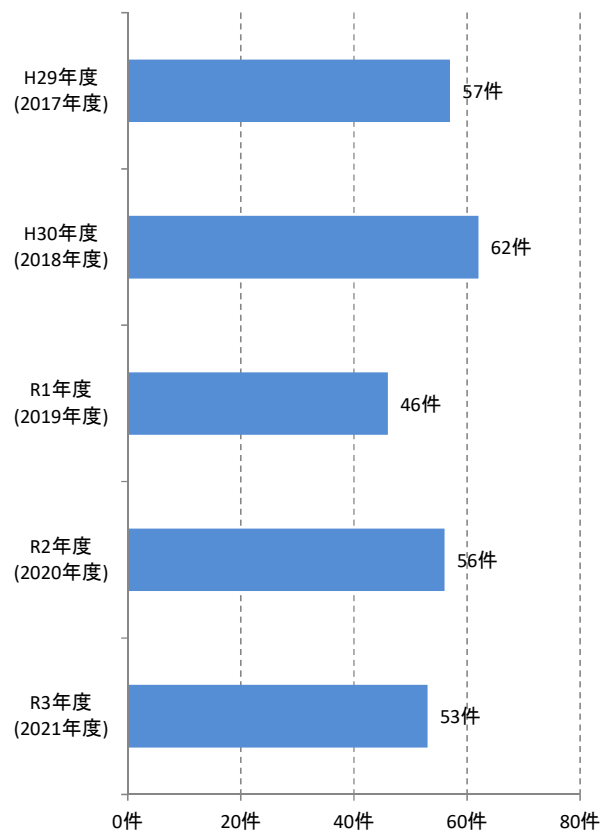
算式

延べ手術件数

単位

件

肝胆膵高難度手術件数



2. 大学病院特有項目： 消化管腹腔鏡手術件数

▶ 項目の解説

腹腔鏡下手術は、従来の開腹手術に比べ患者への侵襲が少なく美容上も良好です。

腹腔鏡下手術における技術や器具の進歩により、消化管疾患に対して安全性や根治性を損なわず腹腔鏡下手術が可能となりつつあります。

消化管腹腔鏡手術件数が多いことは、最新の治療手段により患者にやさしい治療が多く行われることを意味し、病院のアクティビティを示すこととなります。

▶ 定義

腹腔鏡または胸腔鏡を用いて行われた消化管の手術件数

コメント

年間50~100例に行われており、今後増加することが期待される。

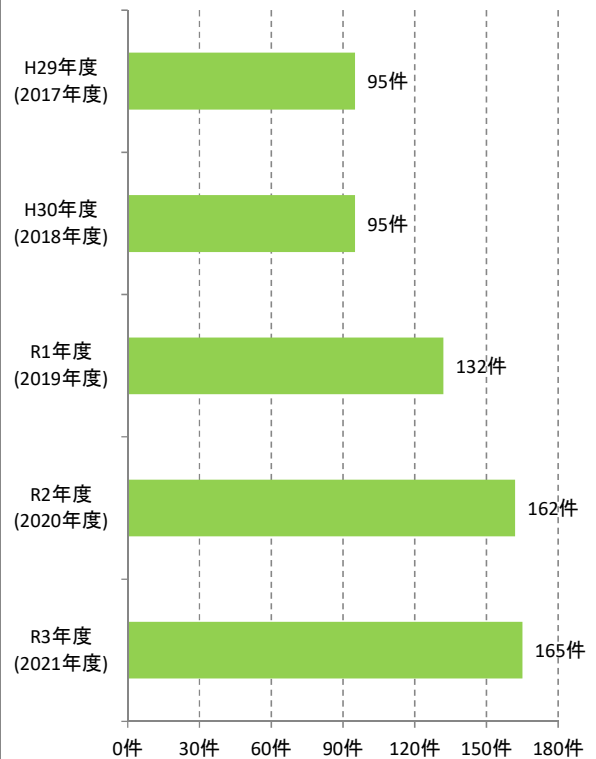
算式

延べ手術件数

単位

件

消化管腹腔鏡手術件数



心臓血管外科

1. 一般的項目:

心臓胸部大血管外科手術症例数

▶ 項目の解説

心臓疾患の外科治療は通常、人工心肺という特殊な補助手段が使用されますが、最近では人工心肺を用いない冠動脈バイパス術や経カテーテル的大動脈弁置換術なども可能ともなってきました。

心臓手術には高度のチームワークが必要であり、難度の高い手術が大学病院で行われます。

▶ 定義

年間の心臓胸部大血管外科手術数

コメント

経カテーテル的弁置換術、オフポンプ冠動脈バイパスなどの低侵襲治療も行っています。今後は透析などの併存疾患を抱えたハイリスク患者様への治療が増えることが予想されます。一方で早期の病態の患者様には胸骨切開を伴わない小切開手術を行っていきます。

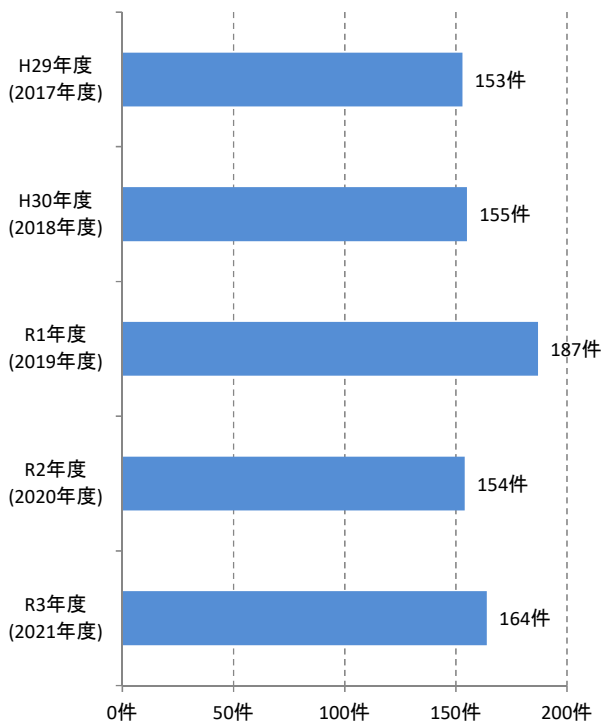
算式

延べ手術件数

単位

件

心臓胸部大血管外科手術症例数



2. 大学病院特有項目:

ステントグラフト挿入術件数

▶ 項目の解説

かつては大動脈瘤の治療は開胸や開腹を必要とし、かつ胸部大動脈瘤は人工心肺を用いなければ手術不可能でありました。しかしながらステントグラフトの開発により、開胸や開腹の必要のない方法で治療が可能となりました。

▶ 定義

年間の胸部及び腹部大動脈ステントグラフト挿入術数

コメント

低侵襲治療の一環であるステントグラフト挿入術は今後増加することが期待されます。

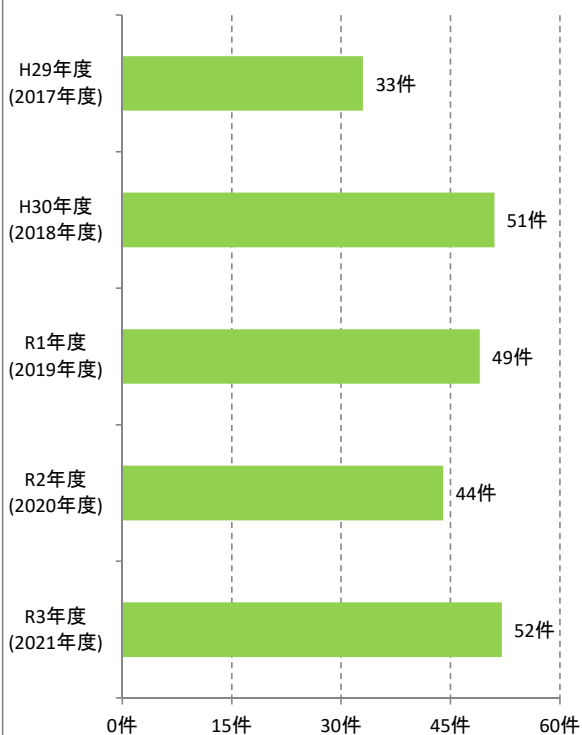
算式

延べ手術件数

単位

件

ステントグラフト挿入術件数



1. 一般的項目:

肺悪性腫瘍手術件数

▶ 項目の解説

肺がんの手術法は近年大きな進歩を遂げています。最近では胸腔鏡を用いた体にやさしい低侵襲手術が主流です。現在ロボット支援手術も積極的に行っております。

▶ 定義

年間の肺悪性腫瘍手術数

コメント

年々増加傾向にあります。

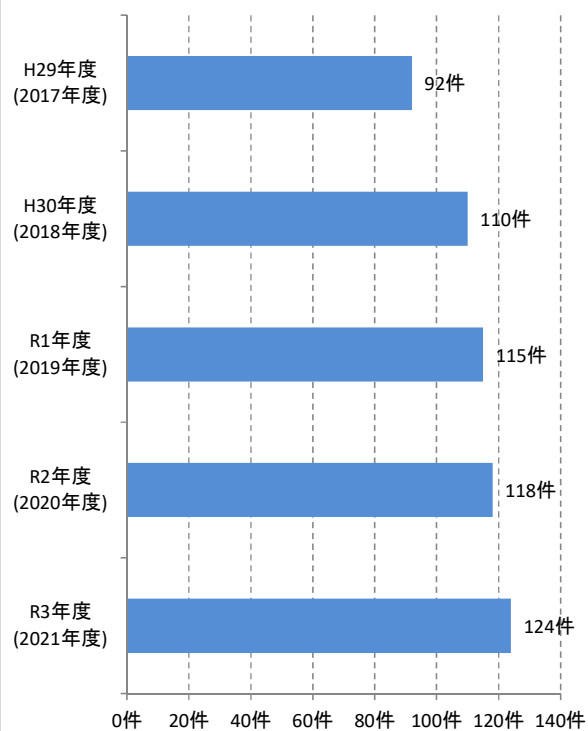
算式

年間の延べ手術件数

単位

件

肺悪性腫瘍手術件数



1. 一般的項目： 遊離複合組織移植手術(骨移植)

▶ 項目の解説

以前の下顎骨・上顎骨再建は人工物を使用した再建が多数を占めていましたが、感染症例では人工物の抜去を余儀なくされてきました。最近では、手術手技の進歩により自家骨移植が比較的簡便に行えるようになりました。

▶ 定義

年間の手術件数

コメント

手術件数のため、ばらつきはありますが、増加傾向にあります。

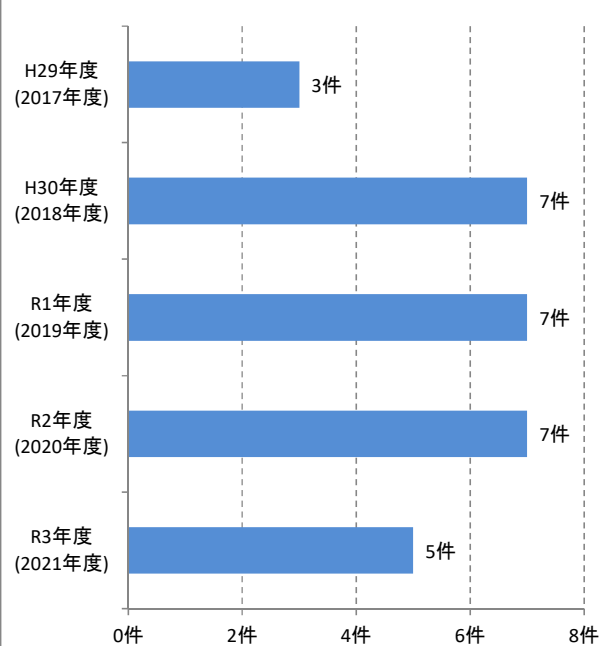
算式

延べ手術件数

単位

件

遊離複合組織移植手術(骨移植)



1. 一般的項目： 乳房再建術(自家組織)

▶ 項目の解説

当院は2018年から人工物による1次2次再建の施設認定を受け、人工物による乳房再建が可能となりましたが、自家組織による再建も行なっております。

▶ 定義

年間の手術件数

コメント

今後増加が見込まれます。

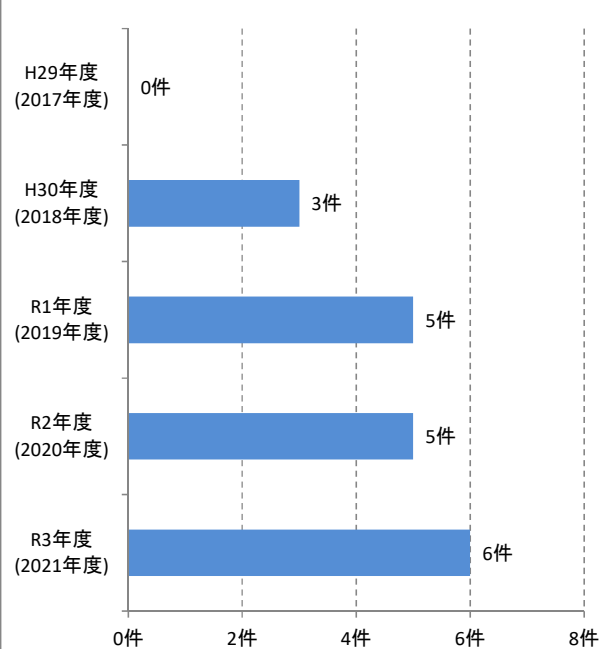
算式

延べ手術件数

単位

件

乳房再建術(自家組織)



2. 大学病院特有項目： 乳房再建術(インプラント)

▶ 項目の解説

2014年から人工物(エキスパンダー、インプラント)による乳房再建が保険診療で行うことが可能となりました。当院は2018年から人工物による1次2次再建の施設認定を受け、人工物による乳房再建が可能となりました。

▶ 定義

年間の手術件数

コメント

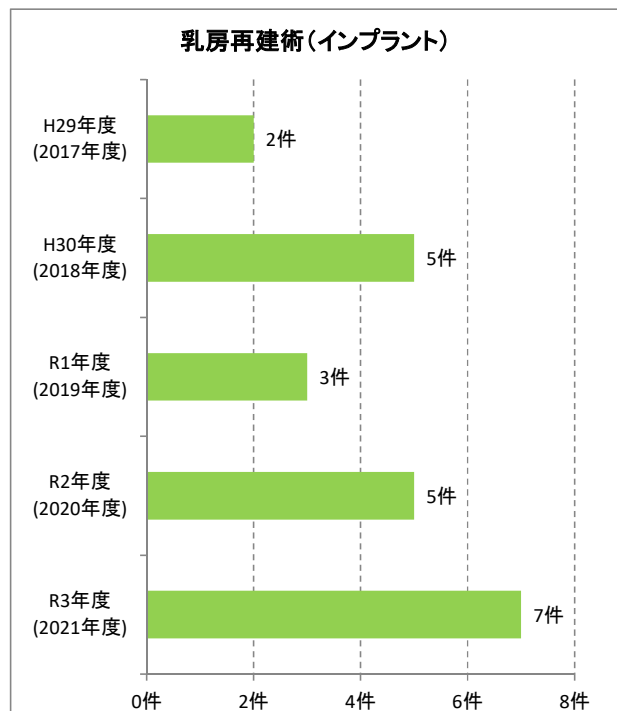
今後増加が見込まれます。

算式

延べ手術件数

単位

件



1. 一般的項目： 外来患者数

▶ 項目の解説

整形外科(運動器)疾患は多種多様にわたっており、本院は地方の特定機能病院として全ての疾患に対応する必要があると考えています。

外来患者数を評価し、さらには疾患ごとの患者数などを検討することで全体的評価や特徴を検討する必要があります。

▶ 定義

年間の外来患者数

コメント

平成22年5月から外来棟が新設され診察室が増加し、一度に診察できる患者数を増加させることが可能になりました。
また、プライバシーへの配慮や待ち時間を減らすことなど患者サービスにも貢献できるようになっています。

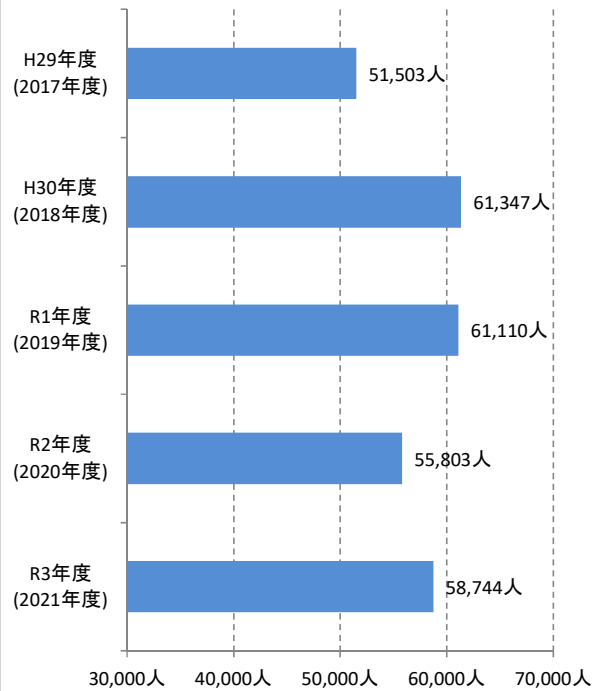
算式

延べ患者数

単位

人

外来患者数



入院患者数

▶ 項目の解説

入院患者数は、入院期間の短縮を心がけていますが、紹介患者の増加により待機患者の入院待ちが長期となっています。

大学病院では重症疾患を多く扱っていますが、診療システムを連携することで効率的な入院運営を行いそのことを評価します。

▶ 定義

年間の入院患者数

コメント

以前のベッド数から増加し、共通病床の利用や救命救急センターの開設もあり、また各科との連携のお蔭で入院待機患者数を増やさないようにしています。

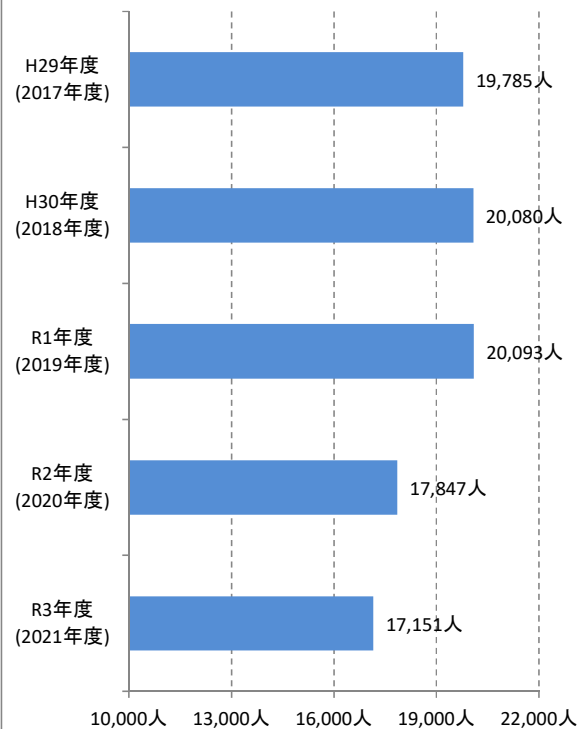
算式

延べ患者数

単位

人

入院患者数



手術件数

▶ 項目の解説

地方の特定機能病院として、様々な疾患に対する手術を実施することが必要不可欠と考えており、手術件数と術式などを検討する。

▶ 定義

年間の手術件数

コメント

平成20年に手術室を増設後、手術件数は増加しています。救急患者の手術件数も増加しており対応できる体制を構築する。

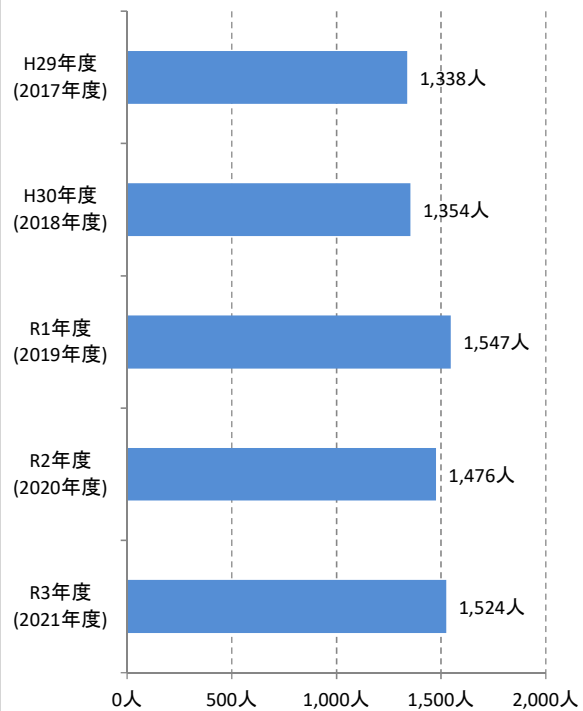
算式

延べ患者数

単位

人

手術件数



2. 大学病院特有項目： 体外衝撃波疼痛治療件数

▶ 項目の解説

体外衝撃波疼痛治療装置を、難治性の足底腱膜炎を中心とした疼痛性疾患に用いた診療を行っています。

本装置は、平成23年12月に難治性の足底腱膜炎に対して保険収載されており、国内での実施件数も少ない状況です。

本院特有の治療法で今後の期待されています。

▶ 定義

疾患ごとの実施件数

コメント

本院では足底腱膜炎が保険収載される前から治療を実施しており、スポーツ選手をはじめ疼痛で困られている患者さんへの新しい治療方法としての実績をあげています。

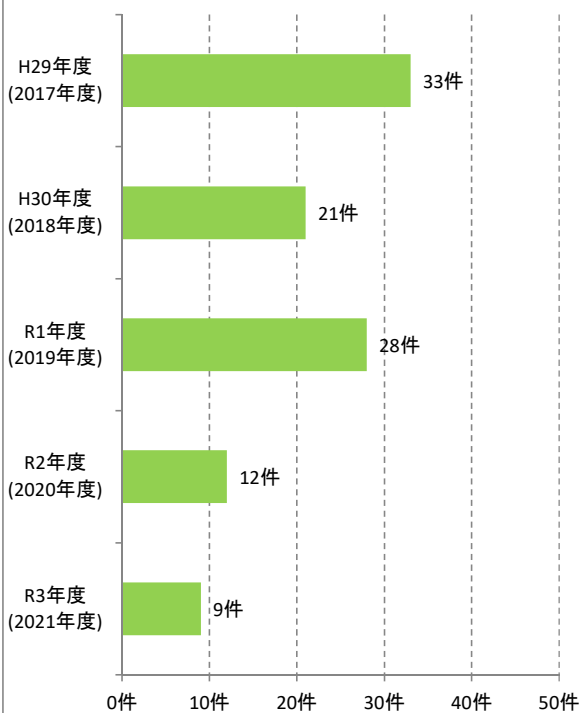
算式

実施件数

単位

件

体外衝撃波疼痛治療件数



2. 大学病院特有項目： 自家培養軟骨移植術件数

▶ 項目の解説

整形外科的再生医療として自家培養軟骨移植術を膝関節軟骨損傷症例に対し実施しています。

本治療法は、2012年7月に外傷性軟骨欠損症もしくは離断性骨軟骨炎に対して保険収載されております。

損傷・欠損した関節軟骨の治療法で今後が期待されています。

▶ 定義

疾患ごとの実施件数

コメント

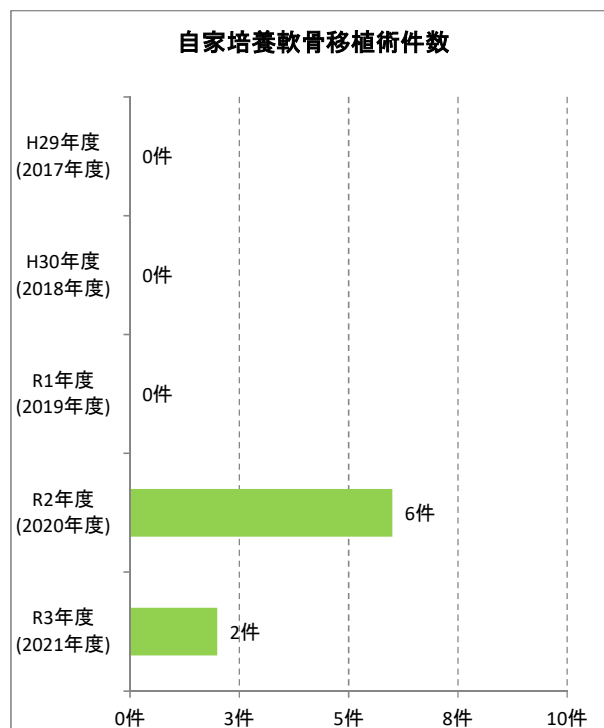
当治療法は実施施設基準や手術実績を満たす施設でのみ承認されており、実施医の研修も必須となります。交通事故やスポーツなどによる軟骨損傷に対する有効な治療手段です。

算式

実施件数

単位

件



皮膚科

1. 一般的項目： 皮膚悪性腫瘍の症例数(入院症例)

▶ 項目の解説

皮膚悪性腫瘍は外科的治療を中心に、化学療法、放射線治療をそれぞれのケースに併せて行っております。

▶ 定義

年間の皮膚悪性腫瘍の入院患者数です。

コメント

集学的な治療を中心に入院加療を行っております。最近では毎年100例以上の皮膚悪性腫瘍の入院治療を行っています。

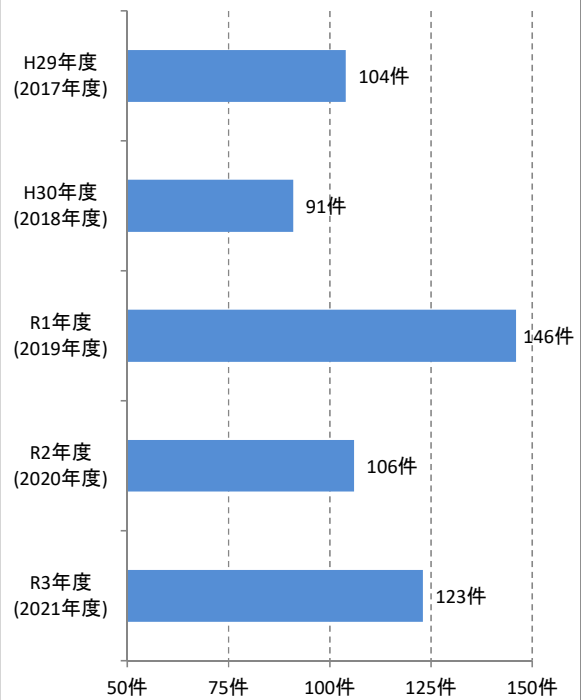
算式

延べ件数

単位

件

皮膚悪性腫瘍の症例数(入院症例)



2. 大学病院特有項目： 悪性腫瘍センチネルリンパ節生検症例数

▶ 項目の解説

悪性腫瘍のリンパ節転移の評価のためにセンチネルリンパ節生検を行っております。

▶ 定義

放射線RIを使用して行った症例数です。

コメント

病期(stage)を評価するのに重要な役割を果たします。適応となる疾患は限られますが必要症例では積極的に施行し、令和3年度は施行件数が増加しています。

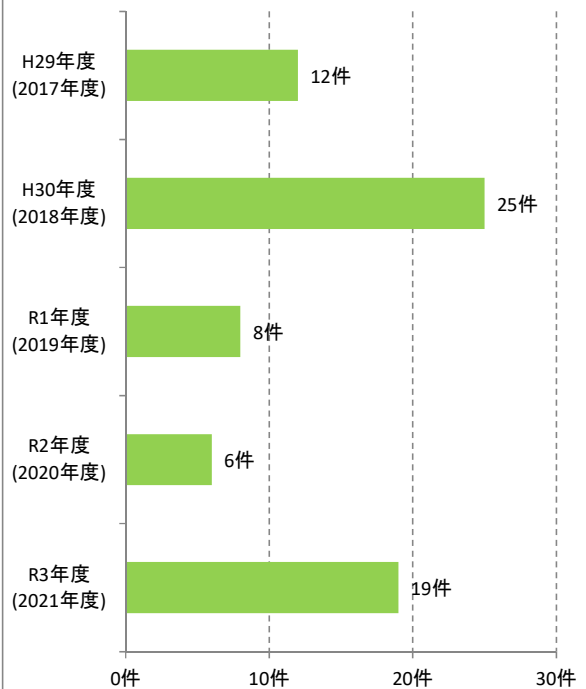
算式

延べ件数

単位

件

悪性腫瘍センチネルリンパ節生検症例数



1. 一般的項目:

腎臓および副腎の腹腔鏡手術(症例数)

▶ 項目の解説

腎臓および副腎は、後腹膜臓器のため腹腔鏡以前はかなり大きな切開創が必要であったが、腹腔鏡手術にて低侵襲となり、術後疼痛緩和、入院期間の短縮が実現できるようになりました。

▶ 定義

年間の手術件数です。

コメント

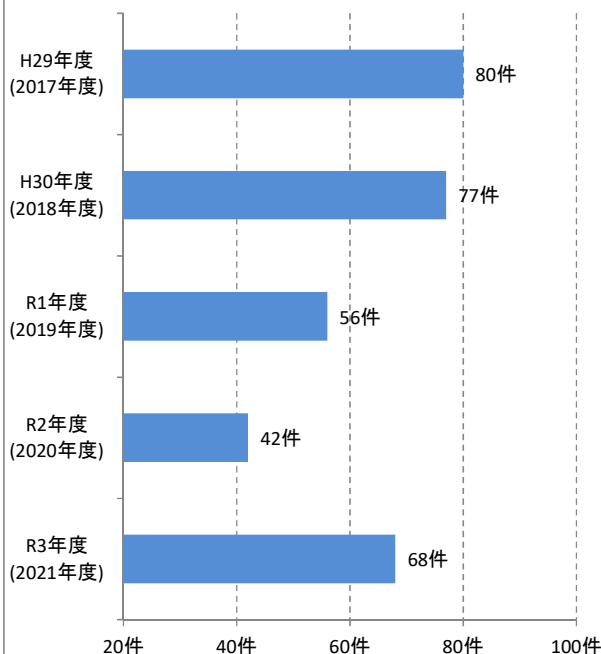
手術件数のためばらつきはありますが、最近では年間50例以上施行しています。県内の他施設で行えない症例(合併症のある症例やサイズの大きな腫瘍など)は当院で手術を行っています。

算式

件数

単位

件

腎臓および副腎の腹腔鏡手術
(症例数)

1. 一般的項目:

腎癌のロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術

▶ 項目の解説

2019年10月より内視鏡手術支援ロボット(da Vinci)を導入しました。従来の腹腔鏡手術は直線的鉗子の動きしかできませんが、da Vinciで用いられているロボットアームは人間の手より可動域が広くより繊細な動きが可能となります。それにより手術の質の向上と合併症のリスク低減が望めます。

▶ 定義

年間の手術件数です。

コメント

2019年にDa Vinciを導入以来、手術件数は増加傾向にあります。徐々に適応を拡大しており、比較的大きな腫瘍(3~4cm)も部分切除を行っています。

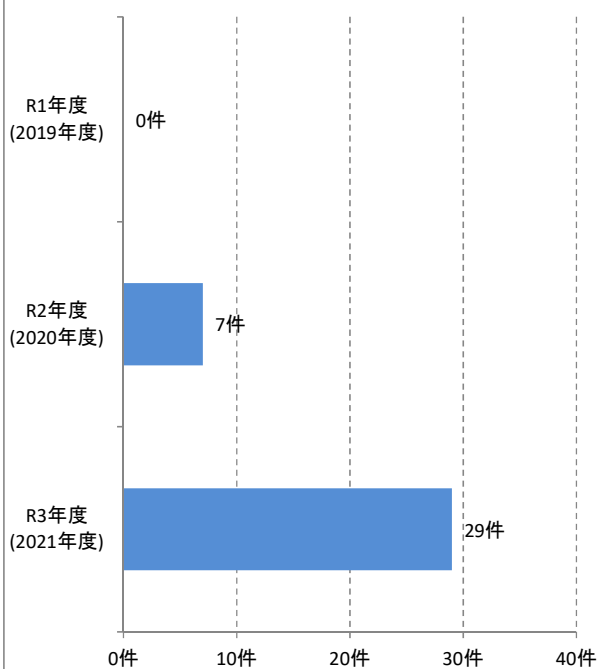
算式

件数

単位

件

腎癌のロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術



1. 一般的項目:

前立腺癌のロボット支援腹腔鏡下手術

▶ 項目の解説

2019年10月より内視鏡手術支援ロボット(da Vinci)を導入しました。従来の腹腔鏡手術は直線的鉗子の動きしかできませんが、da Vinciで用いられているロボットアームは人間の手より可動域が広くより繊細な動きが可能となります。それにより手術の質の向上と合併症のリスク低減が望めます。

▶ 定義

年間の手術件数です。

コメント

2019年にDa Vinciを導入以来、手術件数は増加傾向にあります。症例の蓄積により手術時間を短縮することが可能になり、より低侵襲な手術に努めています。

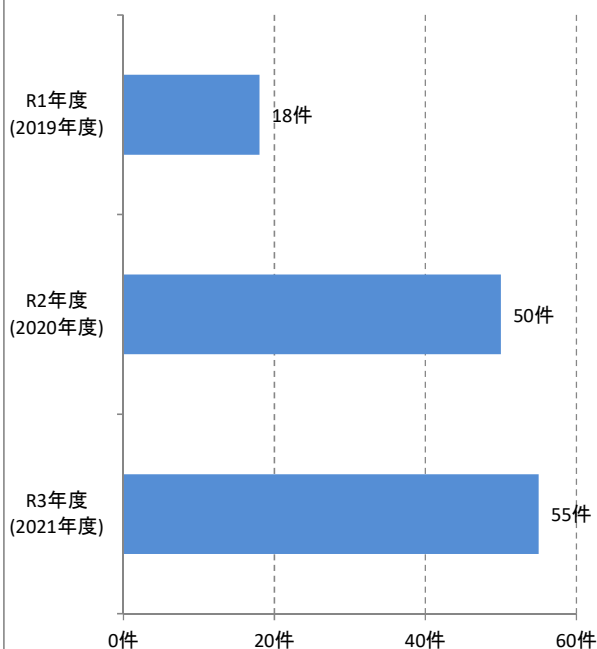
算式

件数

単位

件

前立腺癌のロボット支援腹腔鏡下手術



2. 大学病院特有項目:

前立腺癌の腹腔鏡手術(症例数)

▶ 項目の解説

腹腔鏡下手術は、従来の開腹手術に比べ出血が少なく患者さんへの負担を軽減できます。当院では2009年度に腹腔鏡下前立腺全摘除術を導入し多くの手術を行ってきましたが、2019年10月にロボット支援手術(da Vinci)を導入し、全例ロボット支援手術に切り替わりました。

▶ 定義

年間の手術件数です。

コメント

手術件数のため、ばらつきはありますが、最近は年間30例以上は施行しています。2019年にロボット支援前立腺全摘を導入してからは全てロボット手術に移行しました。

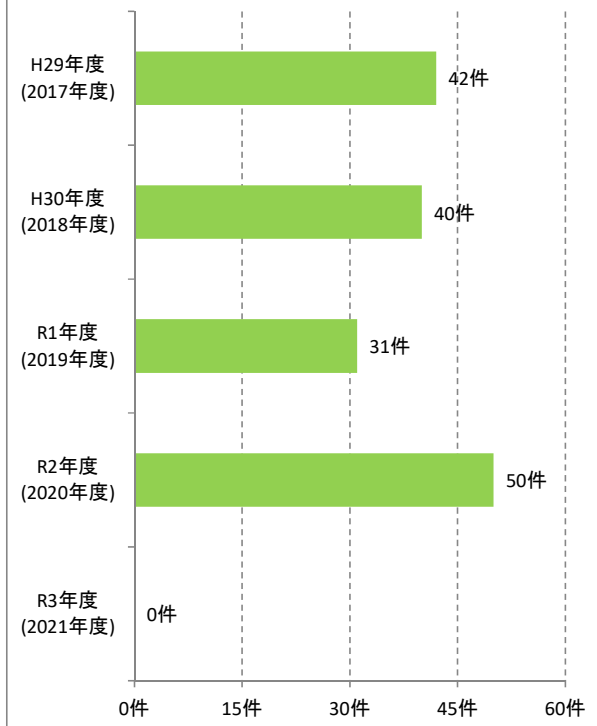
算式

件数

単位

件

前立腺癌の腹腔鏡手術
(症例数)



膀胱癌の腹腔鏡手術(症例数)

▶ 項目の解説

前立腺や陰周囲には静脈叢が発達しているため、摘出の際、出血が多くなる場合もありましたが、腹腔鏡手術による気腹にて、出血を最小限に抑えることが可能となりました。また尿路変向で使用する腸管の創外に脱出しないため、浮腫が軽減できました。また術後疼痛緩和が実現できるようになりました。

▶ 定義

年間の手術件数です。

コメント

手術件数のため、ばらつきはありますが、最近では年間20例以上は施行しています。県内では最も多くの腹腔鏡下膀胱全摘を行っています。

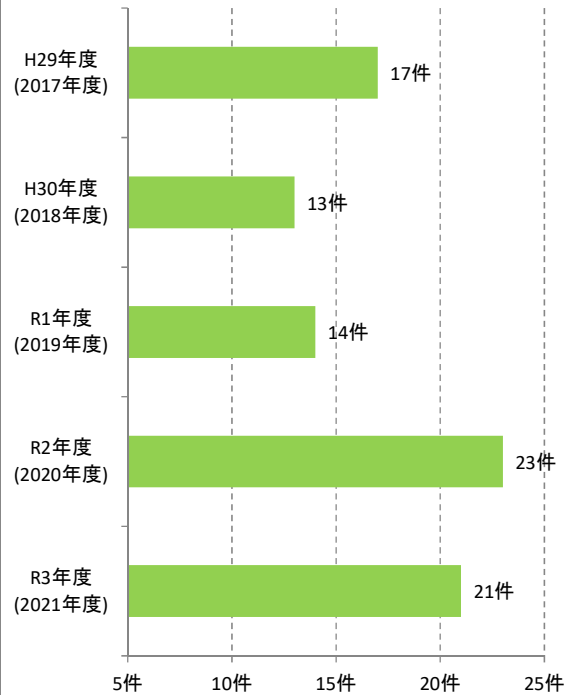
算式

件数

単位

件

膀胱癌の腹腔鏡手術
(症例数)



眼科

1. 一般的項目： 全手術件数(前房内注射、硝子体注入を除く)

▶ 項目の解説

小切開での網膜硝子体手術から小児の斜視手術まで多岐にわたる眼疾患の手術を行っており、眼科領域のほぼすべてを網羅しています。緊急手術の対応や全身管理が必要な患者さん、近医での手術が困難な難症例にも対応しており、その実績を数値で評価します。

▶ 定義

1年間の当科での手術件数です。

コメント

症例数は年々増加傾向であり、さらに難易度の高い手術も増えています。患者数の増加に伴い、短期入院での手術も増加しました。

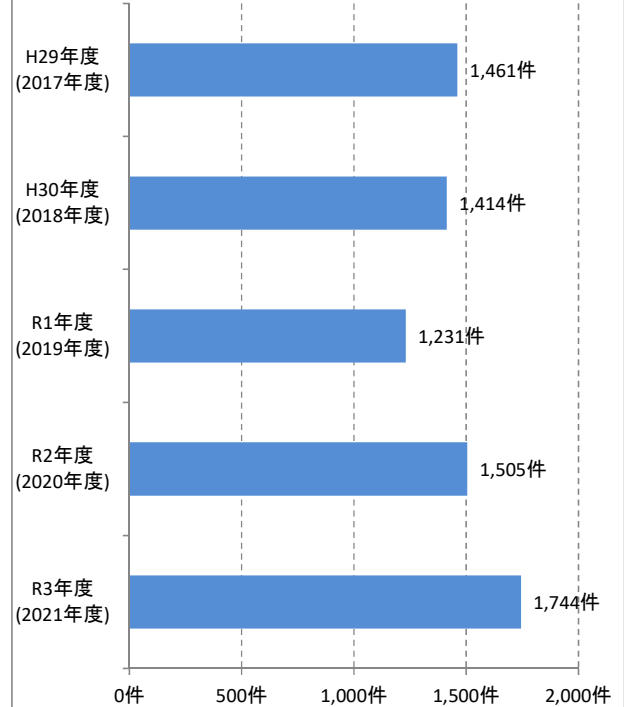
算式

1年間の手術件数
(前房内注射、
硝子体注入を除く)

単位

件

全手術件数(前房内注射、硝子体注入を除く)



2. 大学病院特有項目： 術後眼内炎発生率

▶ 項目の解説

感染により手術後に生じる眼内炎は、視機能を著しく低下させる重大な合併症の一つです。眼内炎の発症予防に十分注意することで、良好な手術成績を保つことができるため、その実績を評価します。

▶ 定義

1年間当科での手術患者で眼内炎を発症した割合です。

コメント

合併症である眼内炎はほぼ発生しておらず、良好な手術環境、創部の管理が成果を上げています。

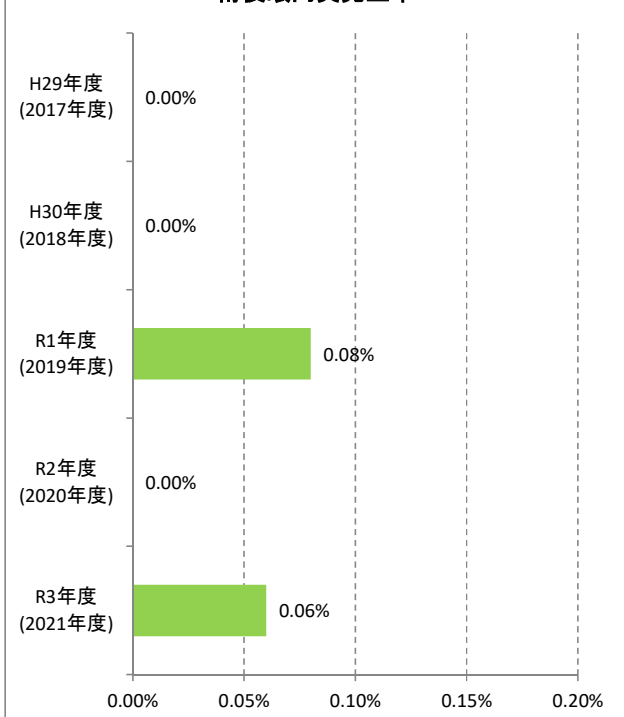
算式

分子: 1年間の眼内炎発症数
分母: 1年間の全手術数

単位

%

術後眼内炎発生率



1. 一般的項目:

耳科手術件数(鼓室形成、鼓膜形成)

▶ 項目の解説

鼓室形成術は耳鼻咽喉科機能手術の中でも代表的なもので、週刊朝日MOOKでも全国ランキングの一項目として掲載されています。

▶ 定義

年間の手術件数です。

コメント

週刊朝日MOOKによると当院の全国ランキング2017年版で5位となっており、宣伝効果も高いと思われます。

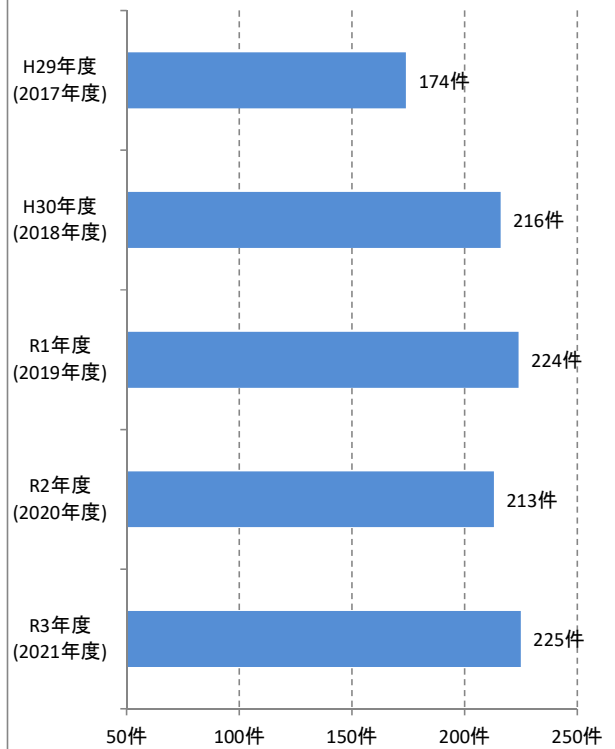
算式

延べ患者数

単位

件

耳科手術件数(鼓室形成、鼓膜形成)



2. 大学病院特有項目:

頭頸部腫瘍手術

▶ 項目の解説

頭頸部腫瘍の根治的切除、機能的・整容的再建を含む手術を行っています。

▶ 定義

手術件数です。

コメント

がん拠点病院として頭頸部がん治療の中心的役割を担っていることが分かります。

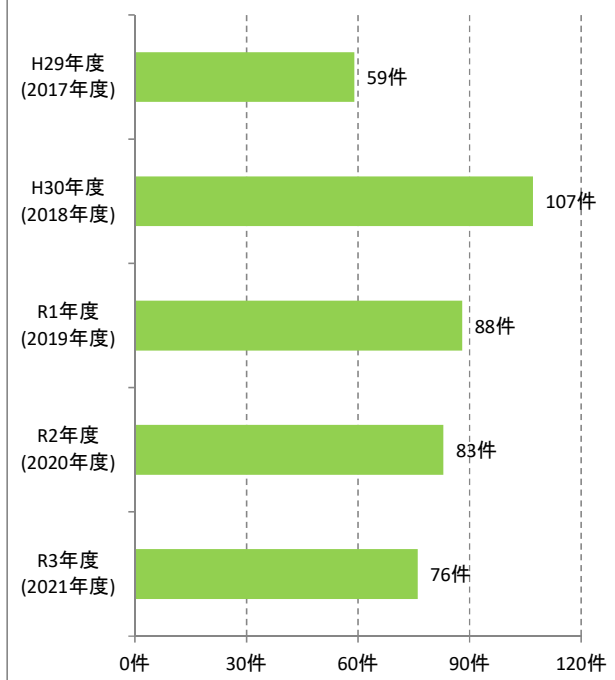
算式

延べ患者数

単位

件

頭頸部腫瘍手術



1. 一般的項目:

婦人科腫瘍(0期を除く)初回治療件数

▶ 項目の解説

宮崎県がん拠点病院として、大学病院産婦人科での婦人科腫瘍の総数を示します。

婦人科がんには、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、外陰癌、陰癌などがあります。

初回治療として手術、放射線療法、化学療法などがあり、集学的に婦人科腫瘍を治療するための多診療科間協力と、看護師、薬剤師、診療放射線技師などとの共同が必要です。この数値は、大学における体制やスタッフ、施設の充実度を示します。

▶ 定義

子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、外陰癌、陰癌などの初回治療の総数を示します。

コメント

多少の波はあるものの、全体として一定～増加傾向にあります。

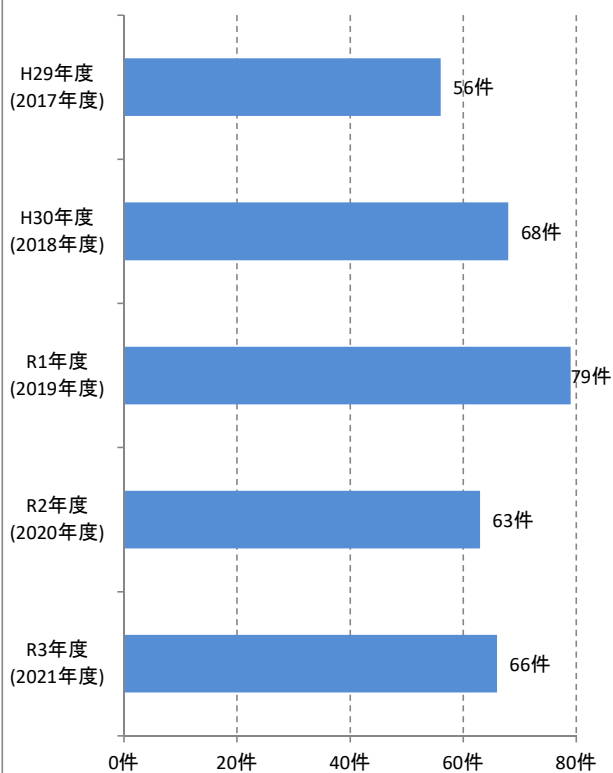
算式

初回治療件数
(治療者)数

単位

件

婦人科腫瘍(0期を除く)初回治療件数



2. 大学病院特有項目:

早産(28週未満)の母子管理数

▶ 項目の解説

周産期医療の中でも28週未満の早産児の予後は不良です。

そこで、28週未満、1000g未満の超低出生体重児は第3次医療施設である大学病院での集学的管理が重要で、小児外科、小児循環器、脳外科、眼科、耳鼻科などの多診療科の協力が重要です。

この数値は、周産期医療を専門的に取り組む大学における体制やスタッフ、施設の充実度を示します。

▶ 定義

母体-胎児-新生児をひとつのユニットとして数えます。(通常は母体数)

コメント

早産の総数は減少していませんが、その中の超早産数(28週未満)は横ばいです。県内の超早産の大部分は大学病院で管理しています。

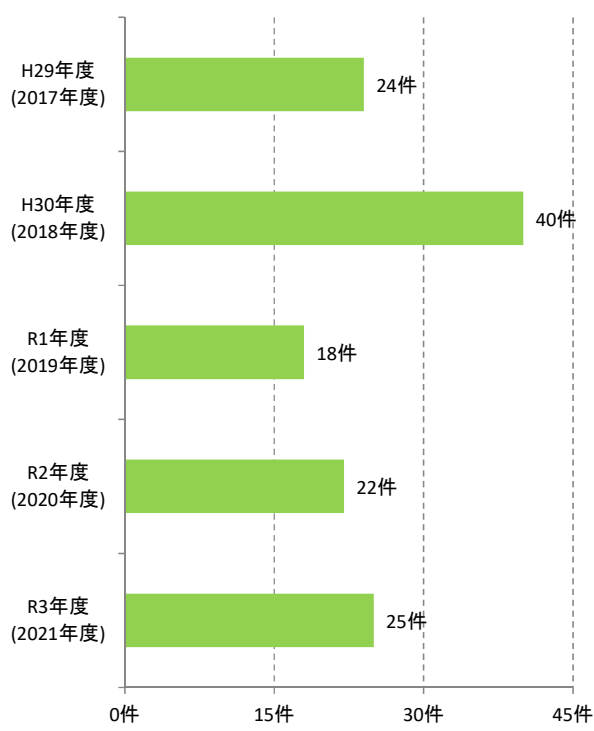
算式

在胎28週未満の
超早産の管理数

単位

件

早産(28週未満)の母子管理数



1. 一般的項目: PETの件数

▶ 項目の解説

PET／CT検査は大学病院における高度のがん診療に欠かせない診断方法です。

▶ 定義

件／年

コメント

検査件数としては減少傾向ですが、これは検査の適応の変化に伴うものであり、癌診療に貢献していることには変わりなりと考えます。

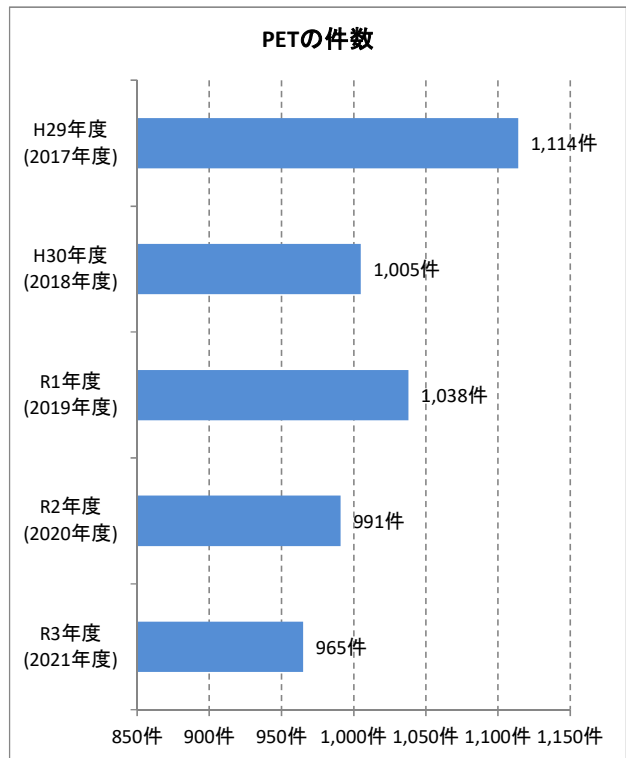
算式

件数

単位

件

PETの件数



甲状腺癌のI131内用治療件数

▶ 項目の解説

甲状腺癌の全摘術後の治療法です。県内では事実上、大学のみで行える治療であり、甲状腺癌の治療に大学病院が貢献している指標の一つと考えます。

▶ 定義

件／年

コメント

分子標的薬の開発などにより治療適応にも変化があります。しかし、県内では大学病院でしか行えない治療であることには変わりなく、今後も宮崎県民の癌治療に貢献していきます。

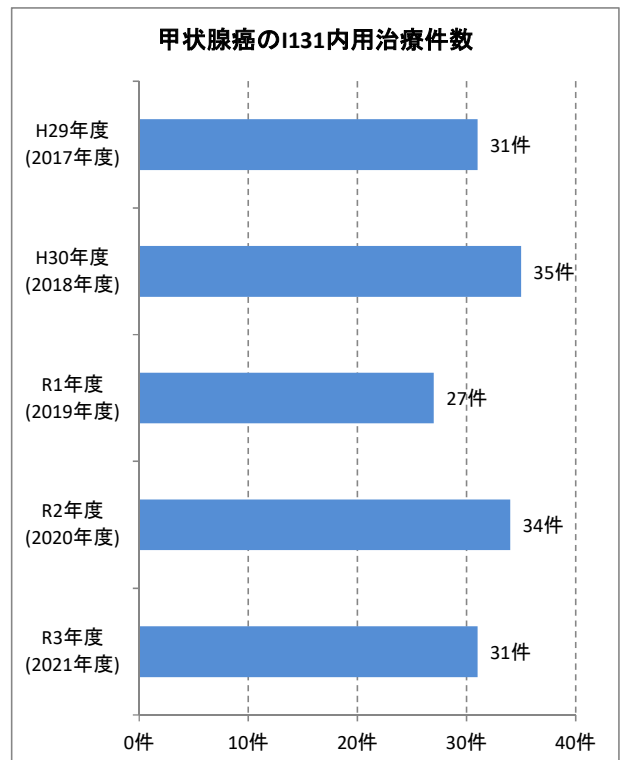
算式

件数

単位

件

甲状腺癌のI131内用治療件数



2. 大学病院特有項目:放射線治療の件数

(大学病院しかでき難いものとしてIMRT, 全身照射などを含んで)

▶項目の解説

放射線治療は機能と形態を温存できる癌の治療法であり、IMRTは宮崎県内では大学病院のみで行える治療法です。放射線治療には高額な機器と極めて専門性の高い放射線専門医や放射線治療専門診療技師が必要です。放射線治療は癌治療には無くてはならない治療法ですので、施設の充実度も反映する指標と考えます。

▶定義

件/年

コメント

放射線治療は厳しい管理の下で行われる治療であり、治療医や検査技師、看護師などが癌患者さんと直接対話を行いながら、予定通りに治療を行い治療効果を高めています。

令和3年度の件数が大幅に減少していますが、IMRTの件数は増加しています。また、放射線治療ガイドラインの改定により治療期間の短縮、照射回数の減少化が進んでおり、照射件数の減少の一因となっています。

なお、IMRTは治療前計画に相当な時間を費やすため、現在のIMRT件数(82症例)は専門医1名での対応としては非常に多い件数の対応となっています。

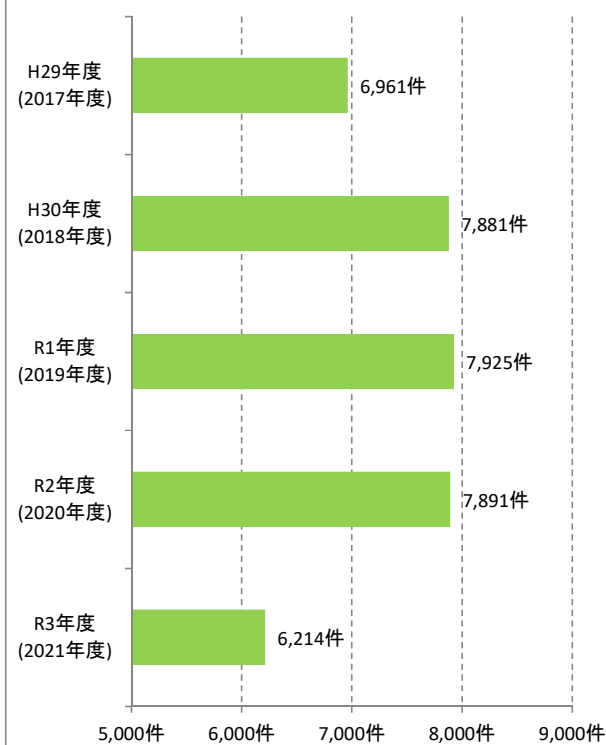
算式

件数

単位

件

放射線治療の件数



IVR

▶項目の解説

IVRは画像診断技術を応用した手術であり、IVR単独で効果を得るものだけではなく、内科的・外科的治療をサポートする治療まで応用範囲はとても広いです。外傷患者も含め、多くの診療科の治療のリレーにより命を繋ぐ症例も多く、各診療科の技術レベルが高い大学病院においてはIVRは必要な治療です。

▶定義

1年間に放射線科IVR医が施行したIVR症例件数です。

コメント

緊急症例を含め、多種類のIVRを行っています。他大学と比較しても、種類・件数ともに多く、特に、緊急症例に関しては大学病院では例を見ない件数にほぼ24時間対応しています。

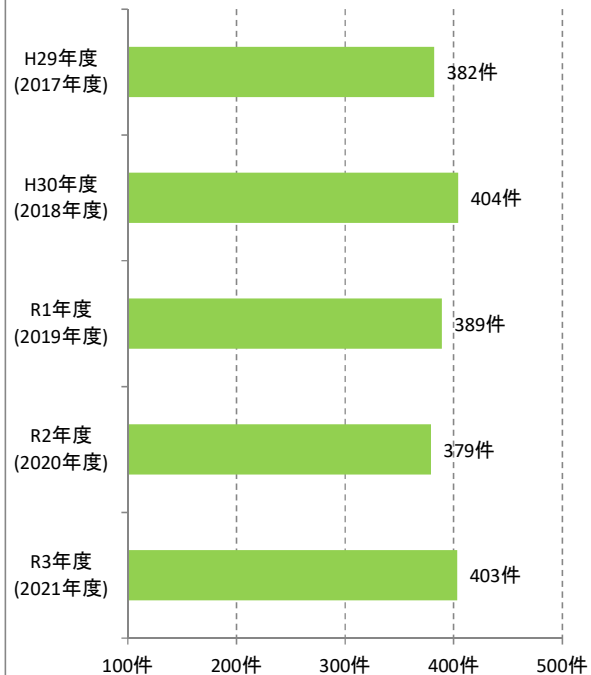
算式

1年間のIVR施行件数

単位

件

IVR



麻酔科

1. 一般的項目： 麻酔科管理症例数

▶ 項目の解説

手術室で麻酔科医がかけた麻酔症例数です。
年々増加しています。

▶ 定義

年間の麻酔科管理手術症例数です。

コメント

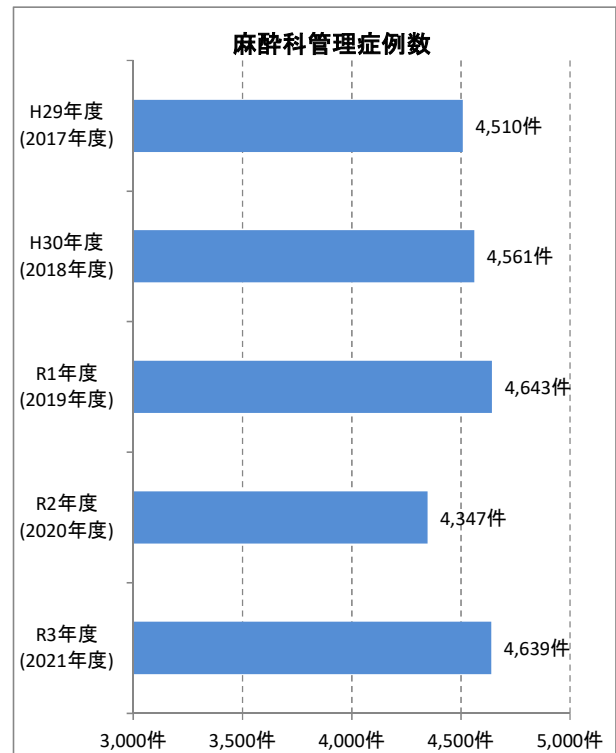
近年、症例数は4,500前後で安定しています。

算式

年間の麻酔科管理
の手術症例数

単位

件



2. 大学病院特有項目： ペインクリニック外来延べ患者数

▶ 項目の解説

ペインクリニックを受診した患者さんの数です。
難治性疼痛に罹患した患者さんが多く受診します。

▶ 定義

年間のペイン外来受診者数です。

コメント

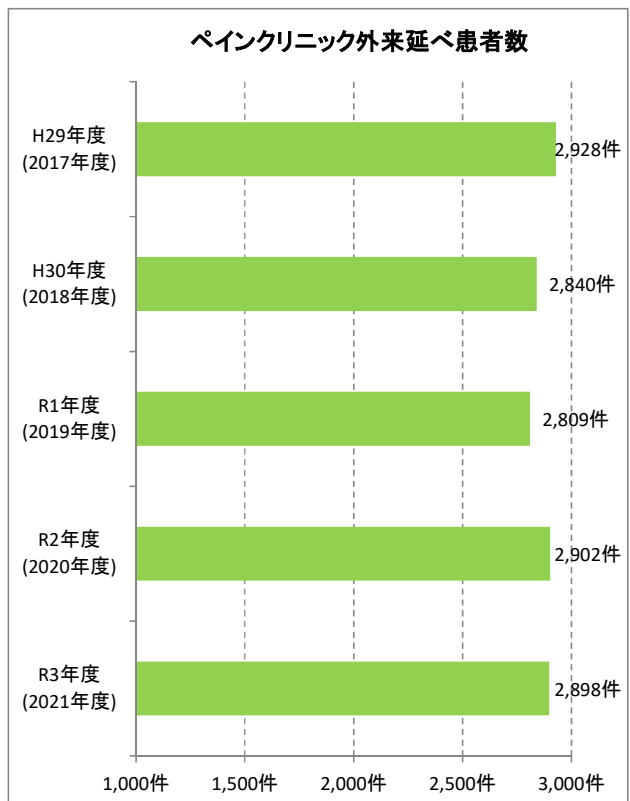
外来受診のみならず、透視下神経ブロックや入院での持続硬膜外鎮痛等も行っています。人員不足、やや症例数が減少傾向です。

算式

延べ患者数

単位

件



脳神経外科

1. 一般的項目： 脳血管内治療件数

▶ 項目の解説

脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、腫瘍栄養動脈塞栓術等に留まらず、近年では脳動脈瘤コイル塞栓術や血栓除去術などにおいても脳血管内治療の守備範囲が拡大しており、アクティビティを示す指標となり得るため。

▶ 定義

脳血管内治療により治療を受けた件数

コメント

脳血管内治療学会認定指導医・専門医の存在する宮崎県唯一の脳血管内治療研修施設として機能しており、治療のみならず専門医育成・教育も実施しております。新規デバイスの導入も積極的に行っております。

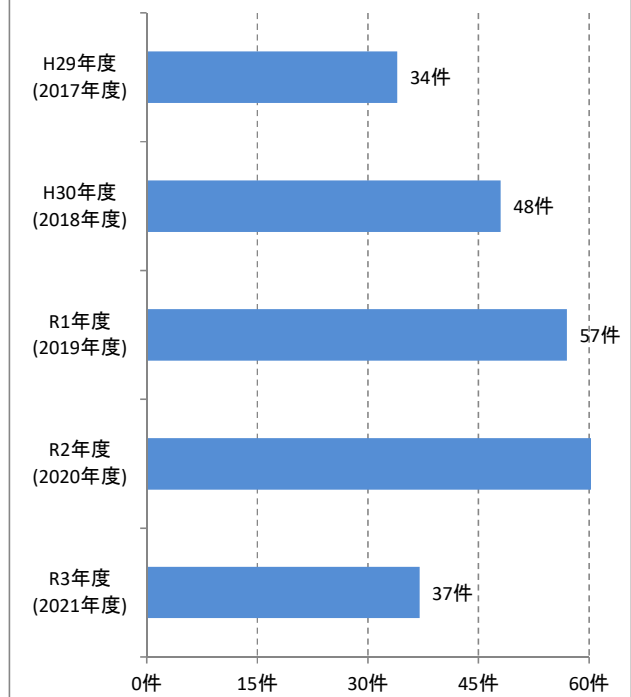
算式

延べ患者数

単位

件

脳血管内治療件数



頭蓋内外血管吻合術

▶ 項目の解説

モヤモヤ病や脳梗塞症例など、慢性的な脳血流障害を来す疾患に対して、浅側頭動脈などの頭蓋外血管と、中大脳動脈などの頭蓋内血管を吻合する手術が、将来の脳梗塞発症を防ぐ効果的な治療法であることが分かっています。

脳卒中診療のアクティビティを示す指標の一つと考えられます。

▶ 定義

年間の頭蓋内外血管吻合術を受けた患者数

コメント

これまでは、ほとんど治療が行われておりませんでした。今後は患者数を増やすと共に、日本脳卒中の外科学会技術認定医の育成にも関わっていきます。

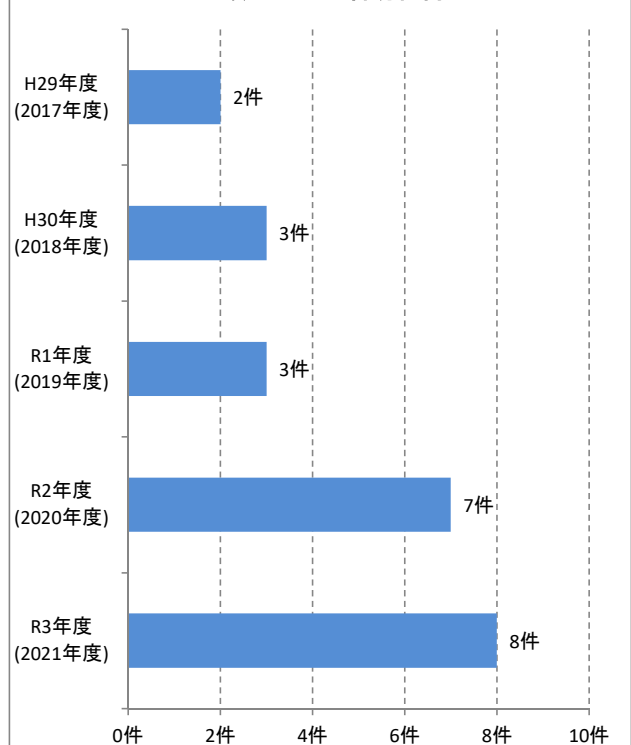
算式

延べ患者数

単位

件

頭蓋内外血管吻合術



2. 大学病院特有項目:

ナビゲーションや電気生理モニターを用いた脳腫瘍の手術件数

▶ 項目の解説

脳腫瘍は、脳内に発生し、周囲脳組織に浸潤する性格をもつタイプと脳外の脳神経、下垂体、髄膜より発生し脳を圧排しながら発育するタイプの2つにわけられます。

前者は、手術のみでは治癒は得られず、放射線・化学療法を含めた集学的治療を必要とします。

一方、後者では摘出術により治癒が得られる可能性があります。そのためには各種手術支援装置を用いてより安全に摘出する必要があります。

従って、脳腫瘍の手術は、十分な手術体制を整え、かつ適切な後療法を行える大学病院が中心とならざるを得ません。

この手術数は、脳神経外科においてスタッフと設備の充実を同時に評価する指標の1つです。

▶ 定義

年間の脳腫瘍に対する手術を受けた患者数です。

コメント

平成21年、22年においては、全国の脳神経外科を有する施設中、40位前後の脳腫瘍手術数です(朝日新聞による)。これは、年々増加傾向にあり、さらなる件数の増加、治療成績の向上に努めています。

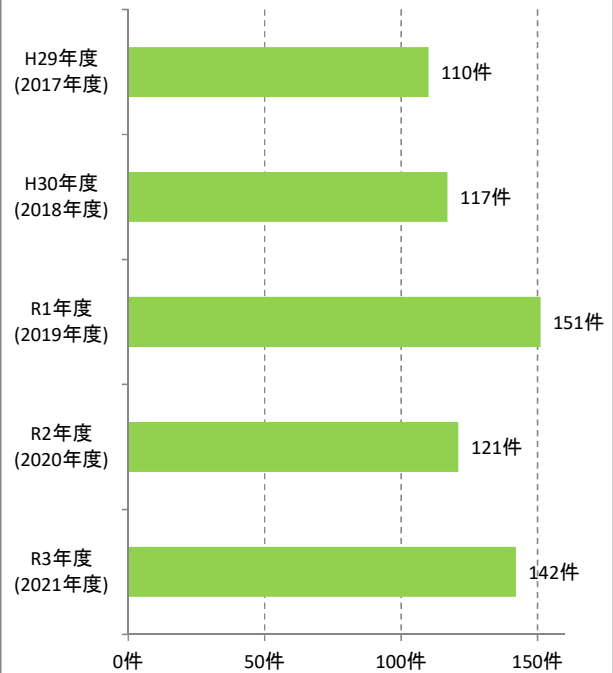
算式

延べ患者数

単位

件

ナビゲーションや電気生理モニターを用いた脳腫瘍の手術件数



2. 大学病院特有項目:

脳腫瘍の遺伝子解析

▶ 項目の解説

脳腫瘍の診断、治療において、遺伝子解析は必須事項となっています。十分な解析体制を築くことは、世界標準の治療を行う上で欠くことが出来ません。

▶ 定義

遺伝子解析症例

コメント

遺伝子解析結果を用いた正確な診断と、適切な治療が実行されています。

また、WHO2021診断基準改訂に対応し診断を進めています。

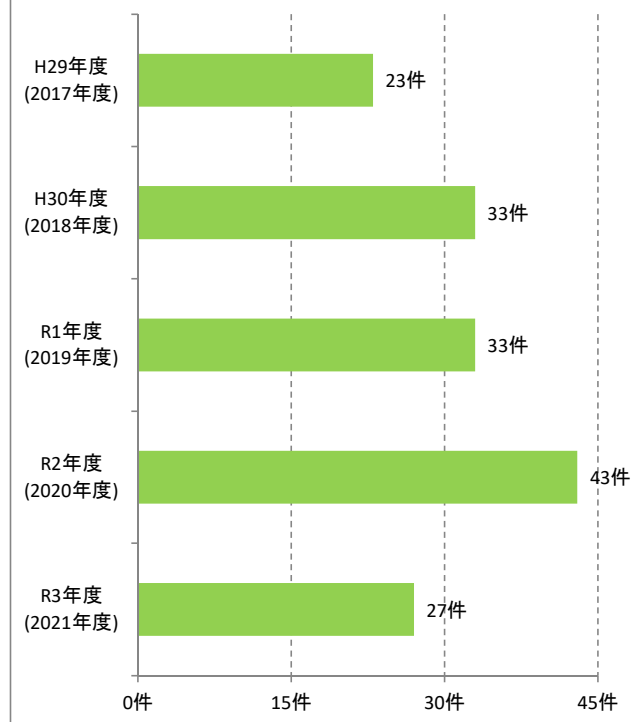
算式

延べ患者数

単位

件

脳腫瘍の遺伝子解析



フローダイバーターを用いた脳動脈瘤治療(症例数)

▶ 項目の解説

通常のクリッピング術や瘤内コイル塞栓術で治療困難な大型巨大脳動脈瘤に対して、フローダイバーターステントを用いた脳血管内治療が可能となりました。

▶ 定義

年間の手術件数

コメント

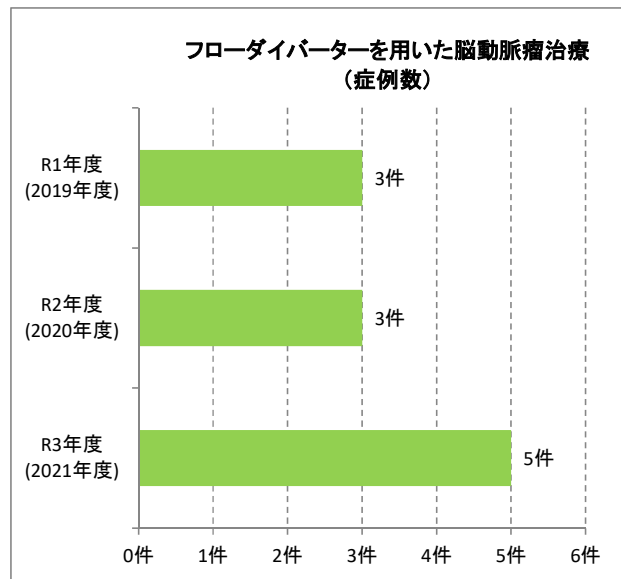
認可されたフローダイバーターの種類も増え、また治療適応も後頭蓋窩動脈瘤も含むように拡大され、年々症例数が増加しつつあります。

算式

手術件数

単位

件



1. 一般的項目： 総手術件数

▶ 項目の解説

顎顔面領域の手術では、顔面の審美性、緊密な咬合接触、および咀嚼・嚥下機能を考慮して処置を行う必要があります。歯科口腔外科専門医と矯正歯科専門医が常勤し、一体となって診断・治療に当たりますので、質の高い治療が可能です。

▶ 定義

年間の全身麻酔下手術件数

コメント

新型コロナウイルスの影響により手術件数は減少しておりますが、高度医療技術を要する手術に関しては一定の件数を保っています。

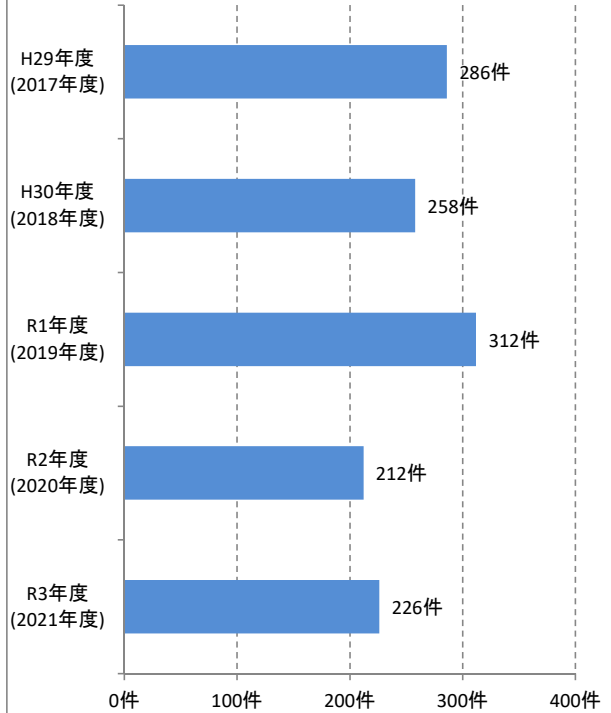
算式

手術件数

単位

件

総手術件数



口腔がん手術件数

▶ 項目の解説

口腔がんは手術が治療の主体となります。

▶ 定義

年間の口腔がんに対する全身麻酔下手術施行件数です。

コメント

一定の件数を保っています。

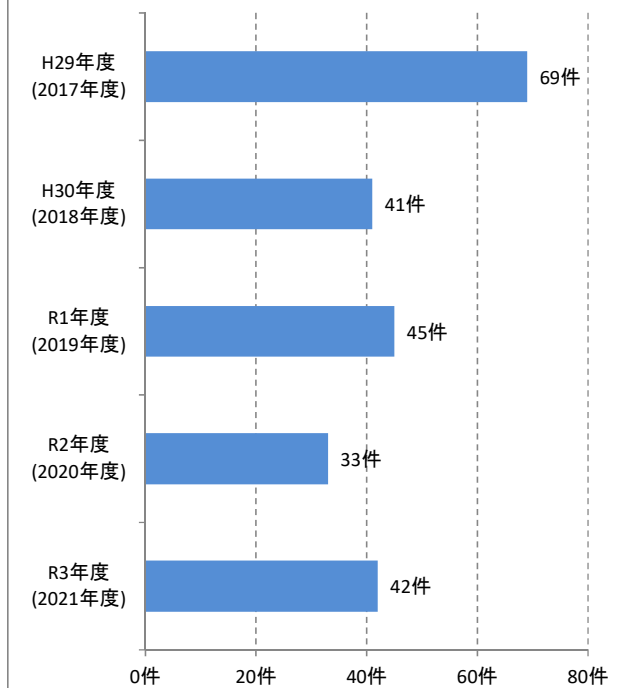
算式

手術件数

単位

件

口腔がん手術件数



口唇口蓋裂・その他先天疾患・顎変形症症例に対する手術件数

項目の解説

当院は障害者自立支援医療(育成医療)、顎口腔機能診断の指定医療機関です。口唇口蓋裂、41の先天疾患、および下顎前突などの顎変形症の手術に健康保険が適応されます。

定義

口唇口蓋裂・その他先天疾患・顎変形症に対する全身麻酔下手術施行件数です

コメント

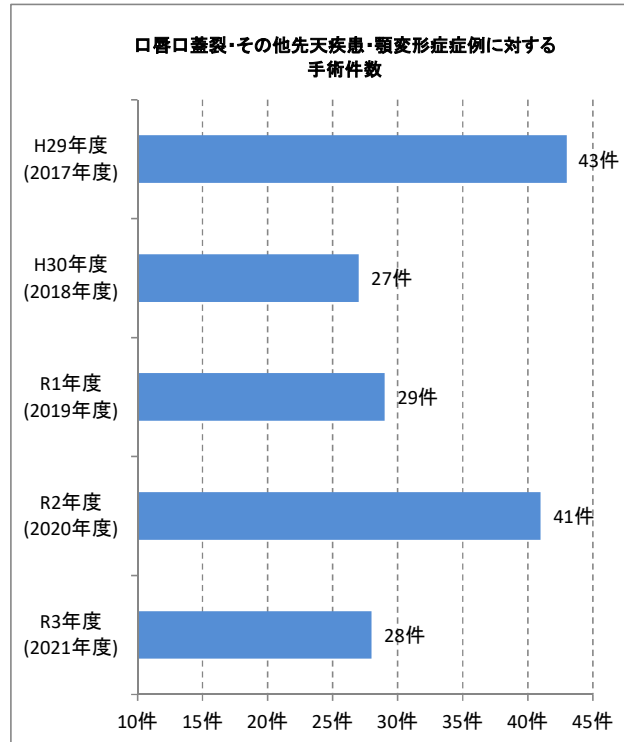
一定の件数を保っています。

算式

手術件数

単位

件



周術期口腔管理

項目の解説

全身麻酔の手術や化学療法、放射線治療では、重度の口内炎や歯周炎、口腔乾燥を生じ、肺炎や感染のため、入院の主目的である治療自体に支障をきたすことがあります。

このため、平成24年度から周術期の口腔管理に保険が導入されました。悪性腫瘍の手術、化学療法・放射線療法、心臓血管外科手術、臓器移植などの前後に、感染源となる菌の治療や抜歯、口腔衛生管理を行います。

定義

件/年

コメント

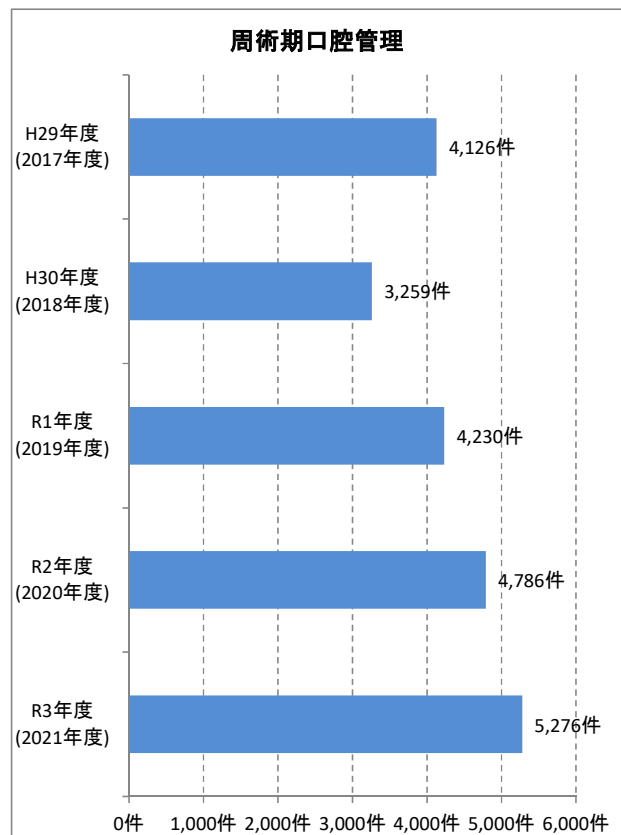
平成24年度から周術期の口腔管理に保険が導入され、近年では外来にてスクリーニングを行い、適応患者の抽出や主科における治療に際しての口腔ケアの必要性・重要性の患者周知および口腔衛生環境向上に努めています。のべ患者数は年々増加しています。

算式

延べ患者数

単位

件



広範囲顎欠損支持型装置埋入手術

▶ 項目の解説

病変や手術等で失った咀嚼機能をインプラントを用いて再建する手術です。

▶ 定義

1年度あたりの全身麻酔下で行った手術件数です。

コメント

顎骨欠損による咀嚼機能障害ではQOLが低下します。骨性再建およびインプラント補綴を行うことで咬合再建によるQOL向上を図ります。症例は一定の件数を保っています。

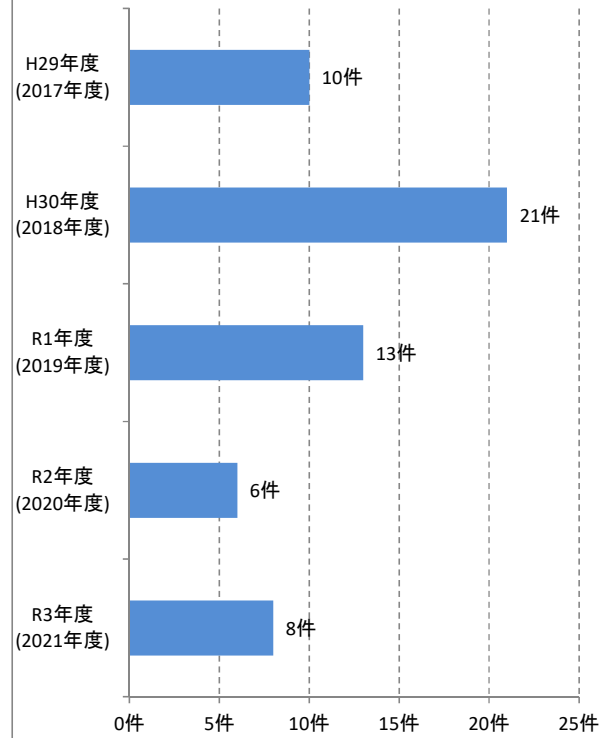
算式

手術件数

単位

件

広範囲顎欠損支持型装置埋入手術



顎口腔再建手術

▶ 項目の解説

病変や手術等で失った顎口腔領域の組織を遊離皮弁、有形皮弁を用いて再建する手術です。

▶ 定義

1年度あたりの全身麻酔下で行った手術件数です。

コメント

顎口腔領域の欠損は、審美性や機能性を失いQOLが低下します。審美障害、機能障害を最小限にとどめ日常生活に支障をきたさぬように再建手術を行います。症例は一定の件数を保っています。

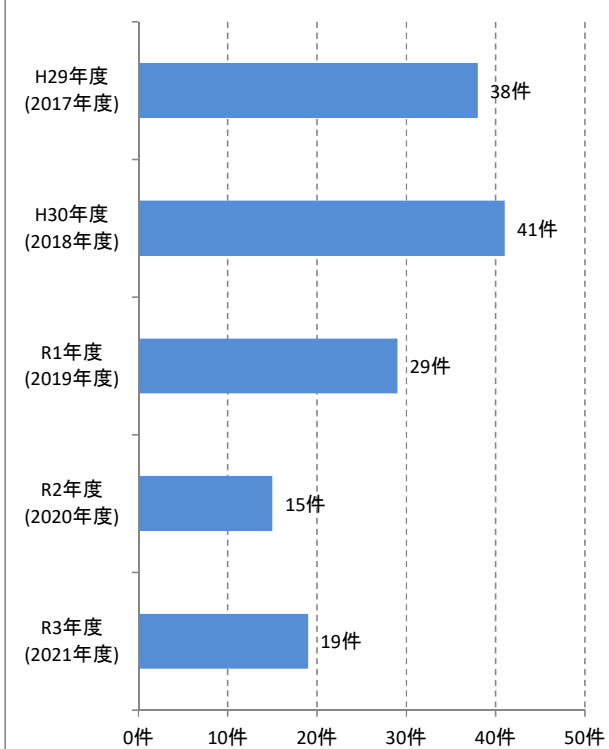
算式

手術件数

単位

件

顎口腔再建手術



顎骨骨折手術

▶ 項目の解説

顎骨骨折に対する観血的整復固定術(プレート固定)です。

▶ 定義

1年度あたりの全身麻酔下で行った手術件数です。

コメント

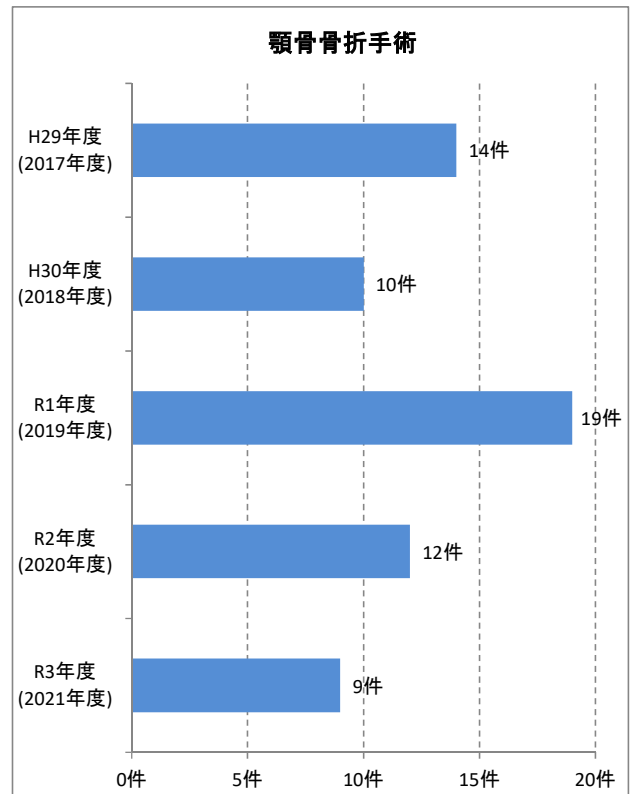
顎骨骨折は受傷から治療までの期間が短いほど治療成績は向上します。当科では原則、受診日に手術を施行しております。迅速な手術は予後を改善させ、早期退院、社会復帰を実現します。症例は一定の件数を保っています。

算式

手術件数

単位

件



2. 大学病院特有項目： 病理組織診断

▶ 項目の解説

体の一部(生検診断)または手術によって採取された臓器(手術材料を用いた病理診断)を、顕微鏡で観察し、癌か癌でないかなどを最終的に診断することを病理組織診断とします。採取された組織は、ホルマリンで固定し、さらにそこからガラス標本を作製するため、病理診断は通常1-2週間程度かかります。腫瘍の場合、病理組織標本を用いて、遺伝子異常を検索し、抗癌剤の抗癌剤の選択が行われます。腫瘍以外の感染症、膠原病、腎臓病などにも行われます。

▶ 定義

病理組織診断は、病気の原因、発生機序の解明や病気の診断を確定し、病理診断をもとに治療法などが決定されていきます。特に悪性腫瘍の治療には病理組織診断が必須になります。

コメント

患者様の病気がどのような種類のものかを、病歴、検査データ、病理組織標本をもとに、病理医が総合的に判断します。積極的に臨床の先生とも会議を開いて、症例ごとの検討会もおこなっています。

近年では、それぞれの患者様の腫瘍にあった治療法を検索する際にも病理組織が利用されます。標本ができるまでも数日は必要で、病理検体が提出されてから、診断報告までには、1-2週間程度かかりますが、迅速で正確な診断をおこなっています。将来は、他病院との遠隔診断についても検討しています。

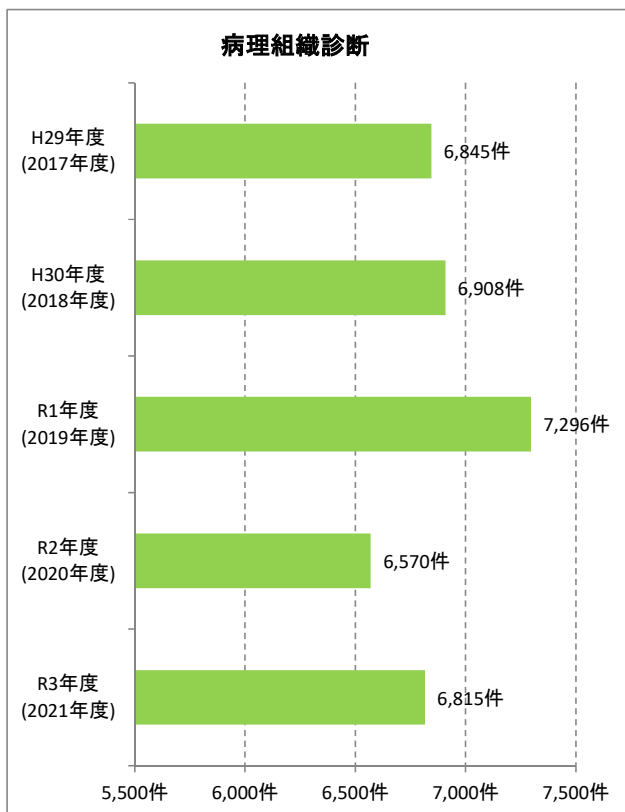
算式

延べ件数

単位

件

病理組織診断



術中組織診断

▶ 項目の解説

手術中に標本作製し、診断する特殊な病理診断です。通常は数日かかる標本作製を、採取された組織を凍らせて作製するので、特殊な機械、高度な標本作製の技術が必要となります。

短時間で、特殊な方法で標本作製するので、通常の病理組織標本よりも診断が難しくなります。手術前に生検ができない脳腫瘍、卵巣腫瘍、開腹しないと採取できない部位の癌の広がりなどを判断します。

▶ 定義

手術前に採取できない部位(脳や卵巣)、手術中に予測していなかった所見があった場合は、術中病理が必要となり、病理診断によって、手術の方法や切除範囲が決定されます。

コメント

手術前に病理診断が難しい部位を中心に行われます。画像だけでは、良性かどうか、腫瘍の種類が難しい場合があり、迅速病理診断の結果、良性、悪性や腫瘍の種類を判断し、最善の治療法を主治医が選択できるようになります。不要な治療や、患者様の負担、医療費の低減に寄与します。取り残しがないことを確認することにより、確実な切除範囲を決定することができます。通常の手術は、手術前に切除範囲は決定され、特に必要がない場合は、術中病理は行いません。

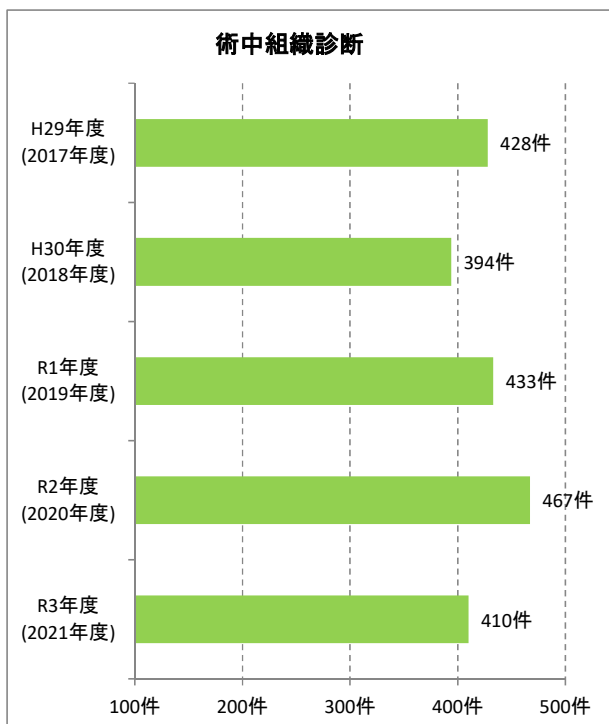
算式

延べ件数

単位

件

術中組織診断



細胞診診断

項目の解説

組織から剥離、または尿や分泌液などに浮遊している細胞を回収し、顕微鏡で観察し、主に腫瘍または腫瘍が疑われるかどうかを診断します。

婦人科領域では子宮頸管の擦過物、呼吸器では気管支擦過法、泌尿器では尿を遠心分離器で沈渣をとり、検査します。

その他乳腺、甲状腺、膵臓、リンパ節からも細胞を採取し、検査が行われます。組織検査と比べると、患者様の痛みや危険性も少ない検査になります。

定義

細胞診診断は一般には細胞診と略称されています。癌の早期発見や早期診断を目的に、人体の細胞の一部を採取し形態学的基準に基づき診断します。

コメント

平成27年より細胞診を当科で行うようになり、平成28年から院内全科の細胞診診断を行なっています。当科で細胞診診断を行うことにより、病理組織診断の情報とあわせて、病理学的な総合判断が可能となっています。

当院では、細胞をすぐに固定する液状検体細胞診を積極的に利用し、質の高い診断に努めています。現在はベッドサイトでの細胞診（オンサイト細胞診）が増え、早期の診断や確実な検体採取の確認になり、不必要な再検査等が減り、患者様の負担の軽減にもなっています。

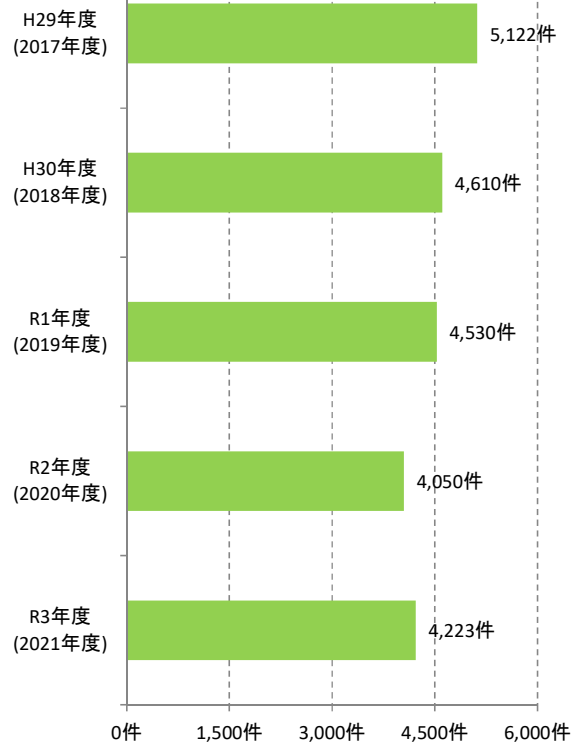
算式

延べ件数

単位

件

細胞診診断



CPC(剖検症例臨床病理検討会)の検討症例率

項目の解説

CPC(剖検症例臨床病理検討会)とは、病理解剖が行われた症例を対象とし、臨床診断や診療のプロセスの妥当性を、臨床主治医および担当診療科医と病理医が一同に会し討論する症例検討会です。

診療行為を見直し、今後の治療に役立てる取り組みを評価する指標になります。

単に症例のまとめを報告するに留まらず、臨床診断・治療から死亡に至るプロセスを体系的に網羅し、大学病院の医療の質を向上させ、医学生、研修生の教育にも大いに寄与します。

定義

1年間のCPC(臨床病理検討会)の開催数を剖検数で除した割合です。学外の症例についても、担当医師を招いて実施した症例は検討症例数に含めます。

コメント

当院では、基本的に病理解剖されたすべての症例においてCPCを開催しています。臨床診断、治療法を病理所見から再検討することにより、病院全体の医療の質の向上を目指します。他病院、症例によっては他県からの施設から依頼のあった症例についても、病理解剖を行い、それらもCPCをおこなっています。

大学病院のため、臨床研修医、医学部学生の教育のためにも役立っています。悪性腫瘍のみならず、数例ですが、Covid 19感染症例や、マダニによるSFTSなどの重症感染症の解剖も行い、新しい病態の解明にも貢献しています。

算式

分子:CPC開催数
分母:病理解剖数

単位

%

CPC検討症例率

